別府大学短期大学部

令和３年度　授業評価報告書

別府大学短期大学部

「別府大学短期大学部 2021 年度学生による授業評価アンケートについて」

別府大学短期大学部　FD 委員会

別府大学短期大学部では、授業改善を目的に 2015 年度より毎年「学生の授業評価アンケート」を実施し「授業評価報告書」を刊行している。

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策としてオンライン授業が実施されたことに伴い、授業評価アンケートの設問にはリモート教育の評価項目を継続して加えた。また、アンケート実施方法も大学と短期大学部で共通化し、学内のポートフォリオ学修支援システム内でアンケートフォームを設置し、回答を受けて集計した。

全体的な傾向として、学生による科目に対する評価を示す Q3 群の質問項目は、大半が 4 ポイントであり、ある適度の学生が平均的に満足している結果が示された。意欲や態度を示す Q1 群の質問項目も全体として学生の意欲が高いことが示されている。授業形態に関しては、授業評価ではこれまで一貫して講義よりも演習が高い傾向があったが、コロナ禍の今年度調査結果でも同じ傾向が確認できた。一方、受講人数による授業評価の違いは、少人数の科目で影響が極端に現れ、全ての解答が 5 ポイントとなる科目も散見された。受講者が少なく回答率も低い科目では、評価に偏りが大きい。評価の低い傾向にある科目も同様で、Q3 群が 3 ポイント台の科目も受講者 10 名以下の科目に多く、良い評価も悪い評価も極端な傾向が示された。また、100 名を超える大人数の科目はやや評価が低い傾向が示されている。

新型コロナウイルス感染症対策下での授業は昨年度と同様、前・後期共に平均して 4.5 ポイント以上の結果で、短期大学部総体としては高い評価を受けているといえる。自由記述では、配布資料の充実やオンラインでのグループ分けの工夫、作り込まれたスライドや豊富なコンテンツの種類や量、感染対策の徹底を評価する記述が多かった。昨年度より新型コロナウイルス感染症対策への不満・要望は減少し、授業のわかりやすさや工夫の言及が目立っている。また、対面授業や演習を喜ぶ声は多く、遠隔授業では補えない要素も多いとも考えられる。一方で、改善してほしい意見として、通信環境の悪さや長すぎる動画の掲載、課題の多さ、課題内容や指示のあり方、教員と学生の対話不足等が挙げられた。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の対応に関連する設問への全体的な平均評価はいずれも 4.5 ポイント以上として安定しており高い。新型コロナウイルス感染症対策下の授業が続く中、概ね良い評価が保てていると考えられる。しかし、改善の要求が引き続き出ているため、Zoom などの使い方等、学生の学修をフォローアップできる体制や指導を引き続き継続して行う必要性は高いと考えられる。また、moodle などで提供される資料等への要望、コンテンツの作り方等、教員側により良い工夫を求める内容が増えてきている。

以上の結果から、これまでの授業改善に加え、オンライン授業の改善や学生への学修支援方法の標準化などの必要性が高まりつつあることが認められる。学修効果を高めるためには、教員・学生が共に意識を変え、新たな技術を身につける必要があるため、授業改善の取り組みをさらに拡大していくことが重要である。

目次

巻頭言　別府大学短期大学　FD 委員会 …… 1

１．授業評価アンケート実施要領…… 3

２．「私の授業改善プラン」作成手順および書式 …… 9

３．令和３年度前期・後期　対象学科別平均点一覧…… 13

４．令和３年度前期・後期　学科別評価、学科長見解および「私の授業改善プラン」

（１）食物栄養科 …… 15

（２）初等教育科 …… 25

１．授業評価アンケート実施要領

令和3年度 学生による授業評価アンケート実施要領

別府大学短期大学部
FD 委員会

1. 目的

新型コロナ対策による「学びの継続」としての遠隔授業等（オンライン授業、対面授業）の実施について、学生の評価から、利点と問題点を洗い出し、今後の改善に役立てる。

2. 実施時期

(1)前期授業評価実施期間：令和 3 年 7 月 5 日（月）～7 月 24 日（土）
(2)後期授業評価実施期間：令和 4 年 1 月 4 日（火）～1 月 24 日（月）

3. 実施方法

ポートフォリオ学習支援システムを利用し WEB 上で実施する。
＊アンケート実施手順（別紙　実施手順）を参照

4. 対象とする授業科目

全ての授業科目を対象とする。ただし、学外で集中的に実施される実習科目は、質問内容が合致しないため調査対象科目から除外する。なお、非常勤講師が担当する科目は科目数等の関係上、調査対象科目から除外する。

5. 調査項目

(1)質問項目の「Q1. あなたの受講態度について」は 5 項目とする。
Q1-1. あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。
Q1-2. あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。
Q1-3. あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。
Q1-4. この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。
Q1-5. この授業のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。
(2)質問項目の「Q2. 授業内容について」は 8 項目とする。
Q2-1. 新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。
Q2-2. 学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。
Q2-3. 教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。
Q2-4. 教員の説明（話し方、資料）はわかりやすかったですか。
Q2-5. 学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。
Q2-6. 教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。
Q2-7. 変更後の達成目標は到達できましたか。
Q2-8. コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。

(3)質問項目(新規)「オンライン授業について」は 5 項目とする。

※Q3 は個別の授業を対象とする質問ではないので、評価は 1 度のみ行う。

※短大 1 年「基礎演習」 2 年「進路指導」 専攻科 1 年「教育言論」 2 年「特別支援教育総論」で回答

Q3-1. オンライン(遠隔)授業が適切に用意されていましたか。

Q3-2. オンライン(遠隔)授業の利用方法は十分に案内されましたか(事前)。

Q3-3. オンライン(遠隔)授業の利用に対するサポートは十分に提供されましたか。

Q3-4. オンライン(遠隔)授業など代替授業は、従来の授業に比べて不足のないものでしたか。

Q3-5. あなたの通信環境や機器などで、オンライン(遠隔)授業は不便なく利用できましたか。

(4)自由記述は「この授業で良いと思う点」,「この授業の改善点」の 2 項目とする。

6. 集計・分析

(1)Q1・Q2 は外部委託、Q3 は教務課と FD 委員会が行う。

(2)Q1・Q2 はそれぞれの科目において集計し, 各質問に対する平均値, 選択肢ごとの回答の実数及び回答率を算出する。

(3)Q1・Q2・Q3 は学科別及び学校全体で算出する。

7. 調査結果の活用

(1)FD 委員会は, 各教員に本人の評価(質問項目別の数値, 自由記述)と学校全体の平均値を比較した結果を通知する。

(2)各教員は評価結果に基づき「授業改善プラン」を作成し FD 委員会に提出する。

(3)FD 委員会は, 各科の所属する教員の評価結果と授業改善プランを学科長に提出する。

(4)Q3 については、FD 研修会等で全員に還元する。

8. 調査結果の公表

(1)授業評価報告書による公表

全学集計結果、学科別集計結果及び分析結果、学科長見解、授業改善プランを集約し、授業評価報告書を発行する。

(2)大学ホームページによる公表

授業評価報告書の内容を大学ホームページに掲載し公表する。

9. 授業改善への反映

(1)各教員は、授業評価の結果から得られた所見を積極的に活用し、授業内容の改善に努める。

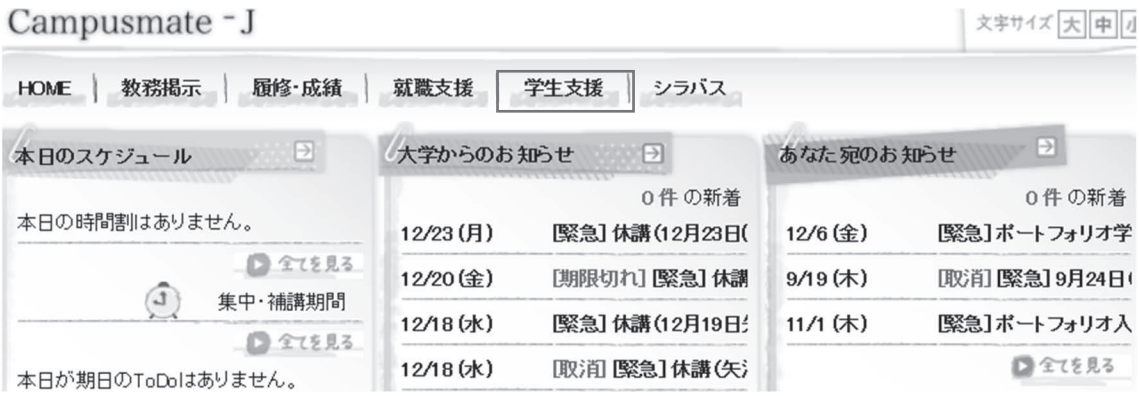
(2)各教員は、次年度の授業において改善点について学生に伝える。

(3)学科長は, 所属する教員の評価結果と授業改善プランを確認し, 評価が極端に低い教員に対して助言を行う。

(4)FD 委員会は、授業評価の結果を分析し、FD 研修会において、授業評価の高い教員の授業実践例を紹介する機会を設け、教育内容の質の向上に努める。

ポートフォリオ学修支援システムによる授業評価アンケート実施手順

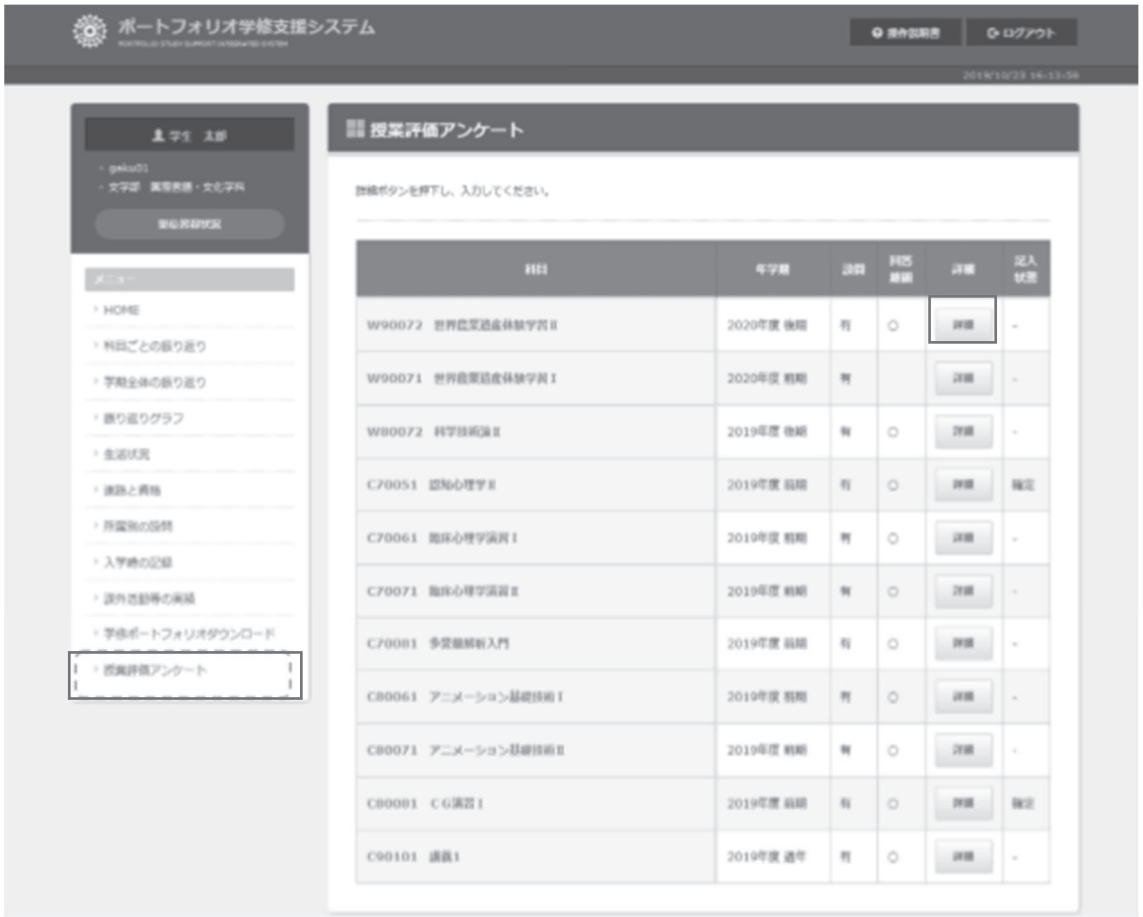
●在学生ポータル「学生支援」の「ポートフォリオ学修支援システム」へログイン



●ログイン画面

① ユーザーID とパスワードを入力しログインをする。

●ポートフォリオ学修支援システムのメニューから「授業評価アンケート」をクリック



① 履修科目一覧（前期）が表示される。

②回答する科目の詳細ボタンをクリックすると授業評価アンケート回答画面が表示される。

●授業評価アンケート設問回答画面

①設問回答欄

設定された設問に対する回答を入力します。

回答期間内のアンケートのみ入力が可能です。

②下書き保存ボタン

入力した内容を保存します。

③確定ボタン

入力した内容を登録します。

④戻るボタン

授業評価アンケート一覧画面に戻ります。

２．「私の授業改善プラン」作成手順および書式

令和３年度　「私の授業改善プラン」作成の手順

１．作成手順

① 前回の「授業改善プラン」に記述した内容のうち，今期の授業で実践したことを「今回の改善点」の欄に 100 字程度で記入する．ただし，本年度後期は，対面のほかオンラインでの授業も実施し、短大全体で問題の共有と改善を行ったことから，新たな取組みや工夫を加味して記述すること．

② 授業評価アンケート結果を受けて，先生方ご自身がどのように受け止めたかを，「評価結果の受け止め」と「自由記述の受け止め」に分けて，それぞれ 100 字程度で記入する．

③ 「評価結果の受け止め」，「自由記述の受け止め」の欄に記入したことを踏まえて，なぜそのような結果となったかの要因を先生方ご自身で分析して，「結果の要因」欄に 100 字程度で記入する．

④ 「結果の要因」欄に記入したことを踏まえて，次学期以降の授業をどのように改善するのか，「授業改善プラン」欄に具体的な方策について 200 字程度で記入する．特に、オンライン授業の際の工夫や改善については必ず記述すること．

２．提出締切

令和３年９月２５日（土）まで　※メールで各科の FD 委員に提出

令和４年２月２６日（土）まで　※スプレットシートに各自記入すること

３．留意事項

- 記入にあたっては，他の教員と，今回の結果を交換するなどして，意見交流を行うとより効果的な「私の授業改善プラン」を作成することができると考える．各自検討すること．
- 「今回の改善点」→「評価結果の受け止め」，「自由記述の受け止め」→「結果の要因」→「授業改善プラン」と相互の関連性が分かるように記入することが大切．

４．記入例

今回の改善点（100 字程度）
今期は対面授業のほか、オンライン授業も実施したため，授業方法の一貫性がとれなかった。しかし，オンラインでは，moodle 上で事前の準備から指導案の作成，結果の振り返りまで，学生が主体的に取り組むことが出来るように適宜必要な課題を課し，一人一人にコメントを返した。また，学生作成の資料について，moodle 上で共有できるように工夫した。

評価結果の受け止め（100 字程度）
対面授業とオンライン授業が共存する授業であったが評価の得点は概ね良好であった。Q2-5「学生が質問や意見を述べられるような配慮」については、毎回質問を受けたことに対して「質問への対応コーナー」を設けて PPT 上で対応し、双方向のコミュニケーションを図るように努めたことが効果的だったと思われる。
自由記述の受け止め（100 字程度）
自由記述欄では，説明の詳しさや対応の丁寧さにおいて高評価を受けているようだ。オンライン授業では対面授業時と比較して PPT はスライド数を増やして文字による説明を具体的に加味した。準備には時間を要するがこのような対応はオンライン授業では必要であったことが確認できた。

⇩

結果の要因（100 字程度）
オンライン授業でも双方向のやり取りができるように工夫することで，学生の満足度につながることが分かった。ただし，模擬授業や集団討論をするためには，対面授業との組み合わせも必要であると考える。

授業改善プラン（200 字程度）
対面授業ができない場合でも，オンライン授業の資料提示方法や学生の声を反映する PPT 等資料の工夫で対面授業を補えることもあることが分かった。ただし，言葉でいろいろなエピソードを加味することができない等のプラスαの情報提示に限界があることや学生がどれだけ集中して授業に取り組んだかは，課題のフィードバックだけでは判断できない。課題が多くなりすぎない課題提示の方法等を含め今後改善していきたい。

５．授業改善プラン（別添１）

６．スプレッドシート記入例（別添２）

別添１

令和３年度　私の授業改善プラン

＊　下書きに書いてから，スプレットシートに記入してもよい。

所属

氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回の改善点（100 字程度） 私は，前期の授業（オンライン授業を含む）を行うにあたって，次のことを実践した！

評価結果の受け止め（100 字程度） 私は，今回の授業改善アンケートの評価結果を見て，次のように受け止めた！
自由記述の受け止め（100 字程度） 私は，今回の授業改善アンケートの自由記述を見て，次のように受け止めた！

⇩

結果の要因（100 字程度） 私は，今回の授業改善アンケートの結果を，次の要因によるものと考える！

授業改善プラン（200 字程度） 今後の授業（オンライン授業の工夫改善）を，私は次のように改善する！

別添２　スプレッドシート記入例

教員名	科目名	今回の改善点（100 字程度）	評価結果の受け止め（100 字程度）	自由記述の受け止め（100 字程度）	結果の要因（100 字程度）	授業改善プラン（200 字程度）
記入例 氏名	担当科目	今期は対面授業のほか、オンライン授業も実施したため，授業方法の一貫性がとれなかった。しかし，オンラインでは，moodle 上で事前の準備から指導案の作成，結果の振り返りまで，学生が主体的に取り組むことが出来るように適宜必要な課題を課し，一人一人にコメントを返した。また，学生作成の資料について，moodle 上で共有できるように工夫した。	対面授業とオンライン授業が共存する授業であったが評価の得点は概ね良好であった。Q2-5「学生が質問や意見を述べられるような配慮」については、毎回質問を受けたことに対して「質問への対応コーナー」を設けて PPT 上で対応し、双方向のコミュニケーションを図るように努めたことが効果的だったと思われる。	自由記述欄では，説明の詳しさや対応の丁寧さにおいて高評価を受けているようだ．オンライン授業では対面授業時と比較して PPT はスライド数を増やして文字による説明を具体的に加味した。準備には時間を要するがこのような対応はオンライン授業では必要であったことが確認できた。	オンライン授業でも双方向のやり取りができるように工夫することで，学生の満足度につながることが分かった。ただし，模擬授業や集団討論をするためには，対面授業との組み合わせも必要であると考える。	対面授業ができない場合でも，オンライン授業の資料提示方法や学生の声を反映する PPT 等資料の工夫で対面授業を補えることもあることが分かった。ただし，言葉でいろいろなエピソードを加味することができない等のプラスαの情報提示に限界があることや学生がどれだけ集中して授業に取り組んだかは，課題のフィードバックだけでは判断できない。課題が多くなりすぎない課題提示の方法等を含め今後改善していきたい。
以下に記入のこと						

３．令和３年度前期・後期　対象学科別平均点一覧

学生による授業評価アンケート 2021年度 前期 教員所属学科別平均点一覧

教員所属学科	科目数	回答枚数	学生の自己評価 [Q1]				授業外学習時間[Q2]	授業の評価 [Q3]							
			1	2	3	4	1	1	2	3	4	5	6	7	8
			あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。	あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	授業の達成目標は到達できましたか。	コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。
食物栄養科	46	866	4.61	4.51	4.52	4.57	2.45	4.53	4.47	4.48	4.47	4.48	4.64	4.43	4.53
初等教育科	119	3498	4.70	4.67	4.69	4.72	2.27	4.61	4.58	4.62	4.62	4.59	4.70	4.61	4.65
全体	165	4364	4.68	4.64	4.66	4.69	2.30	4.60	4.56	4.59	4.59	4.57	4.69	4.57	4.62

学生による授業評価アンケート 2021年度 後期 教員所属学科別平均点一覧

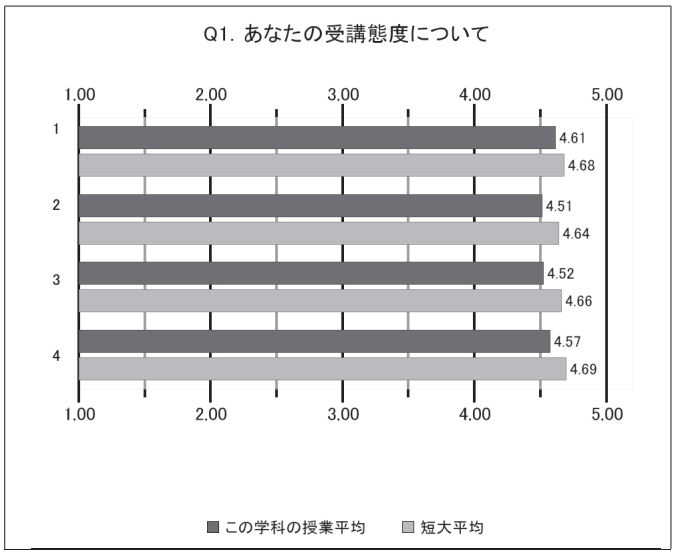
教員所属学科	科目数	回答数	学生の自己評価 [Q1]				授業外学習時間[Q2]	授業の評価 [Q3]							
			1	2	3	4	1	1	2	3	4	5	6	7	8
			あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。	あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	授業の達成目標は到達できましたか。	コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。
食物栄養科	46	300	4.60	4.50	4.52	4.63	2.27	4.58	4.54	4.51	4.53	4.46	4.71	4.46	4.55
初等教育科	130	2691	4.65	4.65	4.65	4.68	2.26	4.57	4.53	4.57	4.56	4.52	4.66	4.53	4.59
全体	176	2991	4.64	4.63	4.63	4.67	2.25	4.57	4.53	4.57	4.56	4.51	4.66	4.52	4.58

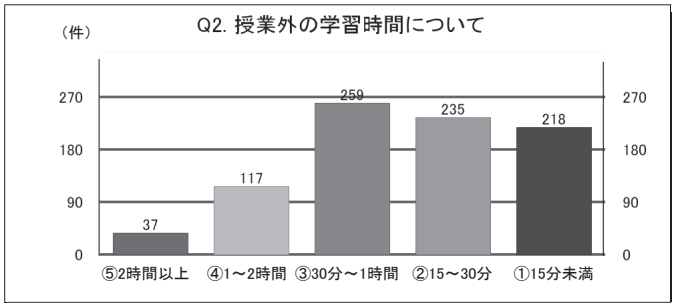
４．令和３年度前期・後期
学科別評価、学科長見解および「私の授業改善プラン」

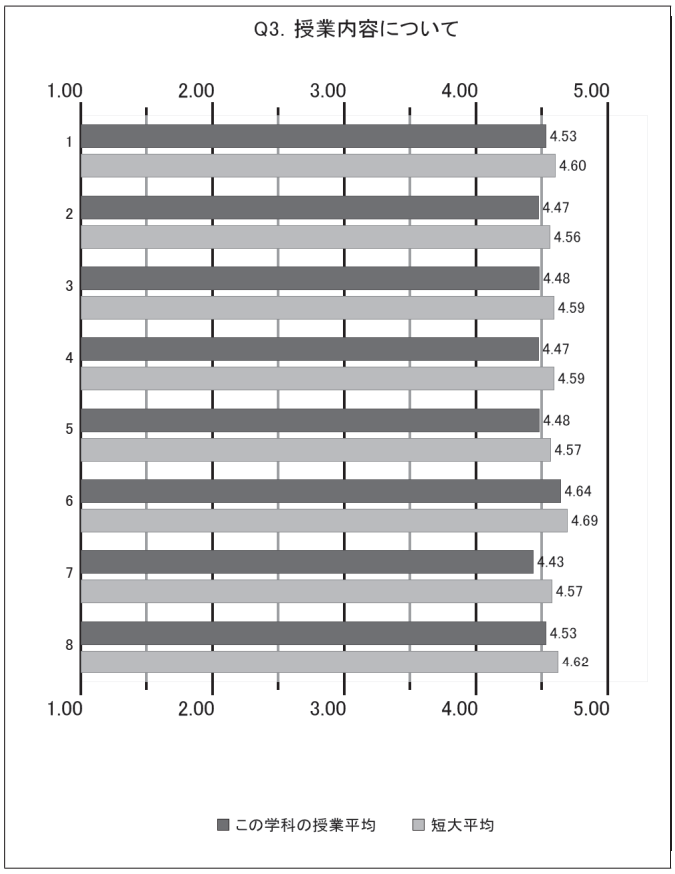
（１）食物栄養科

（２）初等教育科

学科別集計 食物栄養科



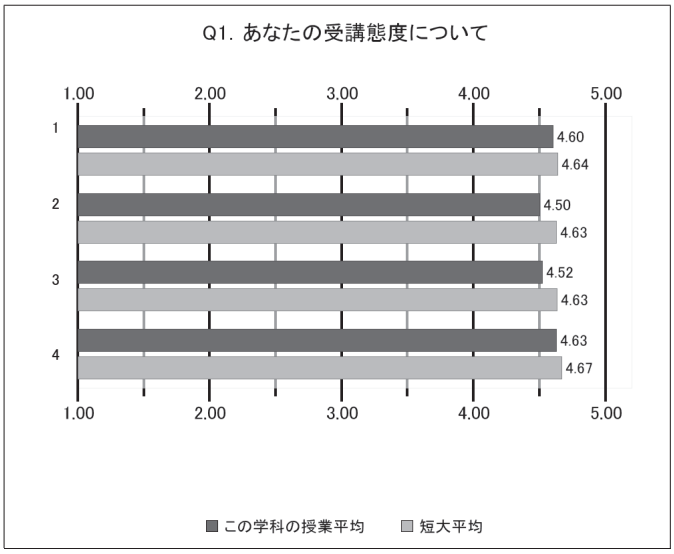


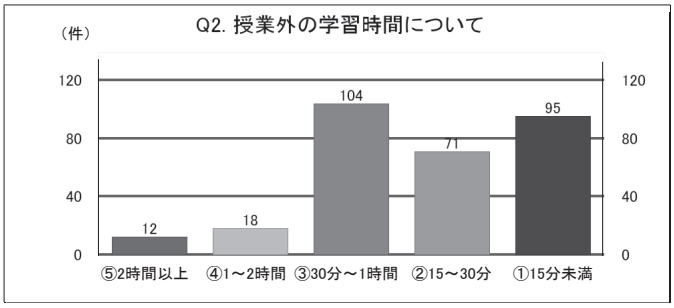


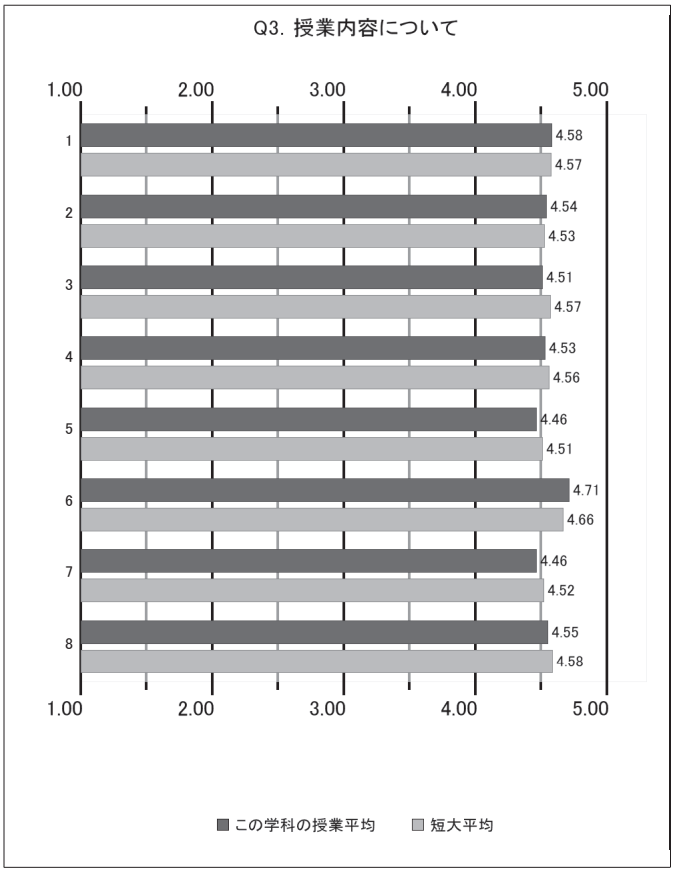
上段:回答者数 ／ 下段:割合

	設 問	5. そう思う	4. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	2. どちらかといえばそう思わない	1. そう思わない	あなたの講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。	627 72.4%	171 19.7%	44 5.1%	20 2.3%	4 0.5%	4.61	4.68
[Q1] 2	あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。	541 62.5%	242 27.9%	66 7.6%	13 1.5%	3 0.3%	4.51	4.64
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	550 63.5%	232 26.8%	70 8.1%	9 1.0%	4 0.5%	4.52	4.66
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	597 68.9%	187 21.6%	66 7.6%	13 1.5%	3 0.3%	4.57	4.69
[Q2] 1	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	（2時間以上） 37 4.3%	（1～2時間） 117 13.5%	（30分～1時間） 259 29.9%	（15～30分） 235 27.1%	（15分未満） 218 25.2%	2.45	2.30
[Q3] 1	新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。	556 64.2%	223 25.8%	74 8.5%	7 0.8%	4 0.5%	4.53	4.60
[Q3] 2	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	528 61.0%	235 27.1%	85 9.8%	16 1.8%	2 0.2%	4.47	4.56
[Q3] 3	教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	535 61.8%	234 27.0%	73 8.4%	18 2.1%	4 0.5%	4.48	4.59
[Q3] 4	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	556 64.2%	200 23.1%	72 8.3%	25 2.9%	9 1.0%	4.47	4.59
[Q3] 5	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	547 63.2%	212 24.5%	82 9.5%	18 2.1%	5 0.6%	4.48	4.57
[Q3] 6	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	612 70.7%	206 23.8%	38 4.4%	7 0.8%	2 0.2%	4.64	4.69
[Q3] 7	授業の達成目標は到達できましたか。	487 56.2%	276 31.9%	93 10.7%	5 0.6%	3 0.3%	4.43	4.57
[Q3] 8	コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。	550 63.5%	246 28.4%	54 6.2%	7 0.8%	9 1.0%	4.53	4.62

学科別集計 食物栄養科







上段：回答者数 ／ 下段：割合

	設 問	5. そう思う	4. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	2. どちらかといえばそう思わない	1. そう思わない	あなたの講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。	210 65.2%	67 20.8%	16 5.0%	6 1.9%	1 0.3%	4.60	4.64
[Q1] 2	あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。	176 54.7%	101 31.4%	21 6.5%	2 0.6%	0 0.0%	4.50	4.63
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	180 55.9%	98 30.4%	19 5.9%	3 0.9%	0 0.0%	4.52	4.63
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	217 67.4%	61 18.9%	18 5.6%	3 0.9%	1 0.3%	4.63	4.67
[Q2] 1	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	（2時間以上） 12 3.7%	（1～2時間） 18 5.6%	（30分～1時間） 104 32.3%	（15～30分） 71 22.0%	（15分未満） 95 29.5%	2.27	2.25
[Q3] 1	新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。	207 64.3%	69 21.4%	18 5.6%	2 0.6%	4 1.2%	4.58	4.57
[Q3] 2	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	199 61.8%	75 23.3%	19 5.9%	3 0.9%	4 1.2%	4.54	4.53
[Q3] 3	教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	198 61.5%	68 21.1%	23 7.1%	5 1.6%	4 1.2%	4.51	4.57
[Q3] 4	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	207 64.3%	60 18.6%	23 7.1%	5 1.6%	5 1.6%	4.53	4.56
[Q3] 5	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	191 59.3%	73 22.7%	25 7.8%	6 1.9%	5 1.6%	4.46	4.51
[Q3] 6	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	231 71.7%	56 17.4%	9 2.8%	0 0.0%	3 0.9%	4.71	4.66
[Q3] 7	授業の達成目標は到達できましたか。	173 53.7%	101 31.4%	19 5.9%	1 0.3%	5 1.6%	4.46	4.52
[Q3] 8	コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。	200 62.1%	76 23.6%	18 5.6%	1 0.3%	5 1.6%	4.55	4.58

食物栄養科
授業評価に関する学科長見解（学科長　海陸留美）

（令和３年度前期）
学生の自己評価である Q1 について、短大平均より若干下回るが高い評価であり、学生自身が授業に意欲的に取り組んだ努力が伺えた。全ての項目において前年度より高い評価点であった。
Q2 の 1 週間あたりの授業時間外学習時間は、短大平均より上回るが、昨年度と比較するとかなり時間数が少ない結果となった。昨年度は約 8 割の学生が 30 分以上学習していたが、今年度は 47.7%とかなり減少した。一方で 30 分未満が 52.3%であり、その内 15 分未満が 25.2%と割合が多く問題である。昨年度のオンライン授業の反省を踏まえ、教員側が課題の量と頻度、提出方法等を見直した影響があると思われるが、全体的に自宅における学習量が減り過ぎているように思われる。特に「講義、演習」の授業形態において学習時間が顕著に低い傾向が見られるため、「講義、演習」の授業を担当する教員は課題の学習内容を見直す必要があると思われた。
Q3 について、全ての項目において短大平均を下回るが、全ての項目において高い評価を得ており、学生の授業に対する満足度は高かったと言える。コロナ禍における授業対応に関する設問 Q3-1、Q3-8 においても高い評価であったことから、コロナ対策及びオンライン授業は満足できるものであることがわかった。

（令和３年度後期）
後期は授業評価を実施する直前に感染拡大の影響で急遽オンライン授業になり、アンケートの回収率が極めて少なかった（特に「実験・実習」の回収率が低い）ため、結果に少なからず影響していると思われた。
Q1 の学生の自己評価では、短大平均より若干下回るものの、全ての項目において評価が高く、前期と同様に学生が意欲的に取り組んだことがわかった。
Q2 の 1 週間あたりの授業時間外学習時間は、短大平均より上回る結果ではあるが、前期と比較すると時間数がさらに少なくなった。前期と同様に「講義、演習」の学習時間が低いことに併せて、前述の「実験・実習」のアンケート回収率が低いことが影響したと考えられた。
Q3 の授業評価については、前期と同様に全ての項目で高得点の評価になり、授業の達成度と満足度は高かったと言える。授業評価や学生の意見聴取の際に出された問題点などを参考に、オンライン授業を円滑に行うためのマニュアルが整備されたことで、昨年度と比べると学生・教員の遠隔操作の不慣れやコミュニケーション不足による問題は少なくなったように思われた。

令和３年度 「私の授業改善プラン」 集約一覧

【食物栄養科　前期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
海陸　留美	臨床栄養学各論 臨床栄養学実習Ⅰ	前回の授業評価において、調理を伴う実習における感染症対策の強化を求める意見があったため、マスクを外して試食する時間を決めて黙食するように指導し、試食台にパーティションの設置を導入して工夫した。また、講義形態のオンライン授業ではパワーポイントの資料に音声をつける、課題の分量や内容を調整する等、昨年度のより自宅学習が円滑に行われるように改善した。	全ての科目において授業内容は概ね高い評価が得られ良好であった。特に２年生の授業は高い評価が得られた。１年生の講義における学生の自己評価では、授業時間外学習時間が少ない傾向にあり、学習時間 30 分以内が全体の約６割であった。２年生の授業（講義、実習）では学生の自己評価も高く、授業時間外学習は半数程度の学生が１時間以上確保していた。	講義で使用する配付資料と説明がとてもわかりやすいという好評価が多かった。復習用のプリントも自宅学習が進みやすくよかったということであった。しかし、moodle 上で課題の資料をアップするのが遅いという意見があった。また、講義系の授業では 252 教室の後ろの席から黒板やスライドの文字が見えにくいという意見もあった。実習系の授業では、実習前に調理デモがあり治療食をおいしくするための献立作成や調理の工夫を学べることができ、また、班員と連携する楽しさも学べたという意見が多かった。感染症対策については、前回から工夫し細心の注意を払い対応したが、一人の学生から、23 号館実習室の施設設備の衛生管理および感染症対策の問題を指摘する意見もあった。	講義系、実習系の授業ともに授業内容について学生の満足度も高く良好な結果が得られた。オンライン授業時には昨年度より資料の内容も改善でき、学生が自学しやすい資料づくりを工夫することができた。実習系の授業におけるグループワークも円滑に行え、班員と連携できた学生が多かったようであった。	授業の復習課題を moodle 上にアップするタイミングが遅いという意見が見られたため、授業開始前にアップするように徹底したい。252 番教室の後部座席から黒板およびスライドが見えにくいようであるので、施設設備を改善できるよう学科としても意見を出していきたい。また、23 号館の実習室の施設設備上の衛生管理の問題も今後改修計画に含めて改善していく予定である。感染症対策についてはこれまでの内容を継続するとともに、学生のマスクを外した試食中の私語をやめさせるように指導を強化していきたい。
岡本　　昭	生物学 食品衛生学実験 公衆衛生学概論 食品衛生学 食生活論	オンラインと対面授業が混在する中での授業で、特に１年生に対しては、スライドや資料を用い、また、資料づくりやプレゼンテーションの機会をつくった。２年生に関しては、提出物の確認やコメントを多く書き入れた。復習テストの実施でこれまでの学習を深めるとともに対面授業ではこれまで以上に動画を利用し理解が深まるような方策をとった。	話し方に関しては、努力しているつもりだが、まだまだ明瞭さが足りないということで反省している。１年生の授業評価に関してはおおむね良好と感じるが、２年生ではクラスごとの評価の差が大きかった。内容が難しいことは承知しているので、こちらとしては熱意だけは手を抜かず、前回の反省を生かして、スライドやプリントを作りこみ、できるだけわかりやすい授業をしているつもりだが、もう少しクラスの雰囲気に柔軟に対応すべきだと感じた。	授業中、学生を平等に扱ったことやわかりやすい、面白いと具体的な評価があったことは、自分のためにもありがたい評価だと受け止めることができた。課題の提出時期などは学生の要望で曖昧になることがあったため、この点は改善していきたい。授業内容について、従前よりたとえをやさしくする、動画を利用するなどの工夫をしてきたが、それでも内容が難しいとの指摘もあった。	学生の質は入学年によって雰囲気も大きく変わるので、こちらが柔軟に対応しなければいけないことを感じている。特に実験はレポートも含めかなりのレベルの内容を実施してきたので、理解しにくかったこともあったかもしれない。また、遠隔と対面授業が混在していたため、授業内容と実験内容がうまくリンクしなかったことも学生が難しく感じた原因と考えている。今後は、解説に時間をとるような工夫をしてより良い学習環境にしていきたい。	遠隔授業では、スライド、資料や説明のアフレコはこれまで以上に丁寧に行いたい。２年生への授業が主体なので、復習に関しては問題を解きながら、学習を深めるなど勉強のやり方をこれまでとは変えていく資料の作成を行う。また、事例研究を取り入れ、最新の知見をわかりやすくかみ砕いて解説することで、今、学習していることが社会に役立つ基礎になっていることがわかるような授業を増やしていく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
工藤　孝一	法学（日本国憲法） ●教育方法論 ○教育課程論 英語コミュニケーションⅠ	授業プリントやワークシートの内容の見直しを行い、学生が書き込みやすいようにした。パワーポイントでの提示資料についても、学生が授業プリントに書き込みやすいよう改善するとともに、興味・関心を持ちやすいよう取捨選択をした。また、昨年度、一部の授業において moodle で小テストを実施し、評価もよかったので、すべての授業において実施するようにした。	授業はすべて対面で実施したが、概ね良好な評価だった。科目によって多少異なるが、教材・教具の利用、質問したり、意見が述べられる配慮、熱意・真剣さに高めの評価があった。一方、授業外の学習時間が全体的に少ない傾向があり、改善の必要を感じた。	毎時間の小テストが意外と好評のようで、前時の内容の確認や復習に役立つという記述があった。小テストは moodle で実施しているため、短時間で済み、結果が瞬時にわかるのもよかったようだ。改善点として「授業のペースが速い」との記述があったが、「ゆっくりみんなのスピードに合わせた授業だった」という記述もあった。より個々に配慮しながら授業を進めたい。	授業プリントやワークシート、パワーポイントでの提示資料などの一層の改善や、moodle を用いた毎時間の小テストの実施などが効果的だったと思われる。授業外の学習時間については、昨年に比べて低くなっているが、短大全体の評価も同様であり、その要因はよくわからない。一層の分析と改善の必要を感じている。	授業プリントやワークシート、パワーポイントでの提示資料は授業の中心なので、一層の改善を進めたい。意外と好評だった moodle での小テストも改善をしながら継続したい。252 教室の Wi-Fi 環境も改善されたようなので、授業中の意見集約など moodle の活用を一層進めたい。また、授業外の学習時間を増やすために、予習や復習の内容をより具体的に指示するなど、一層の工夫・改善を行う。
河野　伸弘	化学 法学 教職概論	化学…栄養士の専門科目を学ぶために、化学の基礎を体系的に理解するように実践した。 法学…日本国憲法の成立過程や基本原理を理解して、選挙に関心を持ち投票行動に繋げるように実践した。 教職概論…保育士・幼稚園教諭・小学校教諭等教師に必要な資質・能力を理解させ、今後の専門科目の学習に繋げた。	授業内容の評価項目 化学…4.56 法学…4.36 教職概論…4.37 全体平均…4.60 Q 2-1 の平均勉強時間の評価は悪い。 化学…2.08 法学…2.50 教職概論…2.00 全体平均…2.30	丁寧な板書と具体例を用いた分かりやすい説明は高評価であった。小テスト（化学…7 回、法学・教職概論…4 回）も理解度向上のために高評価であった。	化学…学生の苦手分野（モル、濃度、化学反応式の数的処理）を基礎から重点的に指導した。 法学…小学校教諭希望が多いので、教員採用試験対策も指導した。 教職概論…危機管理・生徒指導（児童虐待、いじめ、不登校）・キャリア教育の内容も指導した。	対面授業ができない場合でも，オンライン授業で補えることが分かった。ただし，具体例の提示等に限界があることも分かった。学生がどれだけ集中して授業に取り組んだかは，課題提示の方法・量等を含め今後改善していきたい。
衛藤　大青	食品学 情報リテラシー 基礎演習 食品加工学 栄養情報処理 フードスペシャリスト論	対面授業では配布資料を見直し、項目を整理して重要な箇所がよりわかりやすいように整えた。また授業中に使用するスライドもそれに合わせて修正を行った。オンライン授業では動画を活用し、学生がより見やすいよう編集で字幕を追加するなどの工夫を行った。	Q1-2、Q3-3、Q3-4、Q3-5、Q3-8 の設問の各平均点は、全体平均より高い評価を得ていた。一方で、Q1-1、Q1-3、Q1-4、Q3-6、Q3-7 の設問の各平均点が、全体平均に比べて若干低いものとなっていた。	良いと思う点で『配布資料やスライドの見やすい』、『説明がわかりやすい』といった記述が多く見られた。またオンラインで実施した授業については『解説動画があってよかった』といった記述が多くあった。改善点としては、オンラインで実施した授業で『課題が多い』という記述が見られた。	配布資料やスライドなどについて、今期からの修正が受講生にとってわかりやすいものとして受け止められ、それが Q3-2 や Q3-4、自由記述の評価に繋がったものと考える。一方でオンライン授業となった情報機器に関する授業では、対面授業で行っていた『①授業中に教員の操作を見ながら Word や Excel などを作成（90 分）』→『②自宅で課題を行いながら復習（90 分）』の流れをそのままオンラインに落とし込んでしまったため、受講生にとっては自宅で 180 分の課題となってしまい、Q1-1 や Q1-3、改善点の自由記述となったと考える。	対面授業では配布資料やスライドなどの改善を引き続き行うとともに、授業時間外の学習がスムーズに行えるよう、moodle を活用していきたい。また受講生が授業目標を達成できているかどうかの自己認識を促すため、定期的に発表や資料作成、小テストなどを行うようにする。オンライン授業については対面授業の流れをそのままオンラインに落とし込むのではなく、受講生が効率よく学習し技術の修得ができるよう、課題などを厳選する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
藤岡　竜太	生化学実験 生化学 基礎栄養学実験	前期は講義および実験の授業をほぼ対面で行い、プリントの内容をパワーポイントにも加えて視覚で捉える授業を心掛けた。以前はプリントを見ながら口頭での説明だったが、実際に学生がスライドを見ることで理解力向上につながり学生の目線に立った授業を実践できるように工夫した。	クラスごとにバラつきはあったが講義の授業でQ3-2 学生の理解度確認、Q3-3 教材の適切な利用、Q3-4 教員の話し方、Q3-7 授業の達成目標の到達」、これら各項目が低かった。また、実験の授業で良好な評価が得られた部分もあったがコロナの感染症対策が不十分な点が指摘された。	講義の授業では、教え方やプリント、視聴覚教材などの点で良好な評価も見られたが、実験の授業では、コロナのこともあり感染症対策の徹底や、実験授業の環境づくりが不十分な点がある記述が見受けられた。指導不足の観点からしっかり受け止めていく必要があると考える。	講義の授業では特にスライドの中にプリントの内容を加えたことが分かりやすいなどの評価につながった可能性がある。ただ、AB合同のクラスで広い教室での講義を意識していなかった部分があり、合同開講で学生の目線にたった授業を心掛けるべきだった。また、実験はクラスごとだったが感染症対策の徹底および三密の改善が不十分だった可能性が考えられる。	講義に関しては、学生の目線に立った授業を心掛ける。ABクラス合同開講では、スライドや黒板がどのように見えているのか、また、声がどのように聞こえているかなど話し方を含め授業環境の改善を図る。また、引き続き、プリントの内容をスライドに多用して、学生が分かりやすく内容を理解できるよう検討する。実験については三密の改善など感染症対策をできる範囲で徹底し、実験内容の検討も行う。また、実験で受講生全員がきちんと学べる環境づくりを、日頃からの注意呼びかけを徹底して改善を行っていきたい。
浜野　香奈	進路指導Ⅱ 栄養教育論 給食計画論 給食実務論	わかりやすいスライドや配布資料にすること。配布資料は、必要と思うものに絞り、テキストに載っている内容等は省略することで、要点を絞り込んだ。講義では早口になりがちなため、ゆっくり丁寧に話すことを努めた。	全体的に、意図し、努めて授業を行おうとしていたことは学生に伝わったと感じたが、中には配布資料等を必要なものに絞り込むことで、復習等がしにくい学生もいて、個別に対応していく必要性を感じた。	質問に対する前置きが長いことや、回答になっていないとの受け止めに対しては、反省し十分に注意していきたい。理解できたか、質問に対する回答になっているかの確認作業が必要である。テキストや資料のどの箇所を学習しているのかの説明も丁寧に行いたい。	これらの科目を担当するにあたり、回を重ねるごとに内容を見直し、また遠隔授業の進め方、課題の量などについても検討しつつ授業を進めてきたが、学生の個々の理解度についての把握が十分に出来ていないと考える。	オンライン授業においては、オンデマンド形式が中心であり、解説文書を入れるなどの工夫を行ってきた。その形式は理解できるまで繰り返し読むことができるため良いという学生の感想を聞いたこともある。しかし時代の流れとして自身のIT化の技術能力を高めることは必至であり、また今回経験したコロナ禍のように、緊急事態に対応できるような態勢作りが欠かせないことを痛感している。
伊藤　京子	基礎調理 調理実習Ⅱ	対面では個々の実態把握をしてレベルに応じた指導を可能な範囲で行いながら、仲間同士での技術向上を目指し班単位で実技指導もした。また感染症対策の徹底も図った。オンラインでは事前配布が可能な食材を渡し、各自がデモ等を見た後調理実習ができるようにした。実習ノートでは意欲関心度を確認し、コメントで頑張りを認め後期に繋げた。	評価の得点は概ね良好であった。調理実習のほとんどが対面で実施できたことも要因の一つだと思われる。しかし全員が理解できる指導にはなっていないので既習事項を振り返りながら力を定着させていけるような指導の工夫が必要である。また授業外の学習時間の差も見られる。	快活な授業を心がけたことと、細かい指導をしたことが高評価を受けているようだ。しかし自発的に質問ができにくい学生もおり、理解度に差が生じたようだ。２年生については、１年次より緊張感がなくなってきており、学生一人一人の行動をもっと細かく見る必要があった。	技術の向上の他、チームで協力、学生同士や教員とのコミュニケーション、自尊感情を高めるといったこと念頭に授業をしていることが学生にも伝わったのだと思う。実習ノートの作成は概ねできていたが実技の復習は家の環境や強制ではないことから取組に差がついた。また感染症防止対策のため黙食や喫食時間短縮等を行ったが指導が徹底していなかったことからメンタル面で不安定になった学生もいた。	対面の授業では、今以上に映像や写真を使い口頭説明だけでは理解ができにくい学生への力をつける。また調理実習においては役割分担を明確にさせてから開始するようにし、各自の責任感と緊張感を高めたい。オンライン授業は可能な限りリアルタイムで実施をして、同時進行で課題に取り組む、グループ活動を行うなど対面に近い形態で行えるよう工夫をしたい。オンデマンドの場合は環境や能力に応じて取組めるといった柔軟な課題を設け提出率を上げたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
阿部　　淳	体育実技Ⅰ	食物栄養科と初等教育科の体育実技を合同で実施するのは今回がはじめてだった。前回の食物栄養科のアンケート結果が概ね良好であったため、前回通りのシラバスで実施し、学生の運動量の確保と３満を避けて感染予防策を万全にしたいと考えた。	食物栄養科では、10 名中１名に欠席や授業への取り組みの部分でネガティブな解答があり、コロナ渦での授業概要の説明やコロナ対策の授業の満足度で平均を下回った。残りの食物栄養科および初等教育科では平均を上回り、概ね良好な結果だった。	運動量や、みんなで運動が楽しめる、出来ない学生に対する補助などは、良いと思う点に上げられていた。今回は 55 名の学生が履修していた。その為、密を避ける観点から、授業を火曜日と金曜日に分け講師の先生に来ていただいて実施した。改善点に関する回答では、クラスを半分に分けた初等教育科で 11 件中７件が、その事に関する不満だった。	運動量の確保や、みんなで運動を楽しめるような工夫、出来ない学生に対して丁寧に教えることは、以前から意識し重点を置いていた。クラスを二つに分けなければならなかったことは、時間割を作成する際、学科間の交流を意識し過ぎて、体育実技を合同にしたことで起きてしまっていると考える。	授業内容ではある程度の満足を得ているため、大幅な改善は必要ないと考える。今年度はオンラインの影響で、シラバスの変更を余儀なくされたため、種目数を減らさなくてはならなかった。次回はシラバス通りの種目数を確保したい。今回は２回のオンライン授業があったが、次回からは極力対面で運動量を確保しながら講義を進めていきたい。どうしてもオンラインにしなければいけない時には、その内容の説明と、その後の授業内容の変更について、より丁寧に説明していきたい。体育館の暑さに対する不満も２件確認された。エアコンの導入も検討して欲しい。今年度はじめて食物栄養科と初等教育科の体育実技を合同で実施したが、今回のアンケートの改善点に関する回答では、同じクラスを二つに分けたことに関する不満が多く、学生は他学科との交流よりもクラス内の交流を望んでいて、学生の思いには応えられていなかったのではと感じている。次回からの時間割に生かしていただきたい。
岩本　貴光	体育実技Ⅰ	新型コロナウイルスの蔓延による影響を受け，オンライン授業と対面授業をミックスして行う形式で実施した。 なるべく，オンライン授業では，学生らが興味関心を持つような，内容となるように自宅で気軽にできる内容を精選した	すべての項目において、平均値より高い数値を評価して頂いた。本年は、新型コロナウイルスへの対応を第一に考え、より学生が授業に興味関心が沸く授業展開を心がけた。特に学生らが達成感、充実感を授業終了後、実感できるよう内容を通常より分かりやすく丁寧に行ったことによる結果であると受け止める。	やはり，体育という科目は，１年次ということもあり同級生と触れ合い分かち合う場面が展開できる科目なので，もっと実技をしたかったという意見が多かった。	内容が充実していて達成感を感じる授業との評価を頂いたが、一部、オンライン授業の課題が難しいとの評価があった。その中で次年度の課題として，先ず１点目は、授業展開の工夫の中でオンライン授業の出席確認の際に、授業時間にアクセスをすることと課題の提出、両方でワンセットにして一時間の授業完了としたが、Zoom 授業の時は引き続き行うが、オンデマンド授業の時は課題の提出を持って出席とみなす、といった方法を取る。 ２点目は、オンライン課題の量を今一度考える必要がある。他の授業もオンライン授業となり、学生らの課題が非常に多い現状がある。作業能力の低い学生には期間が短すぎたので，もう少し長いスパンが必要である。	他の授業との絡みで学生の移動や電波の不都合で欠席になることがあるとの報告があったので，授業時間帯だけでなくその週の間に，課題の内容を確認して，期間までに提出した者は，可とするなどといった対応が必要であると感じた。

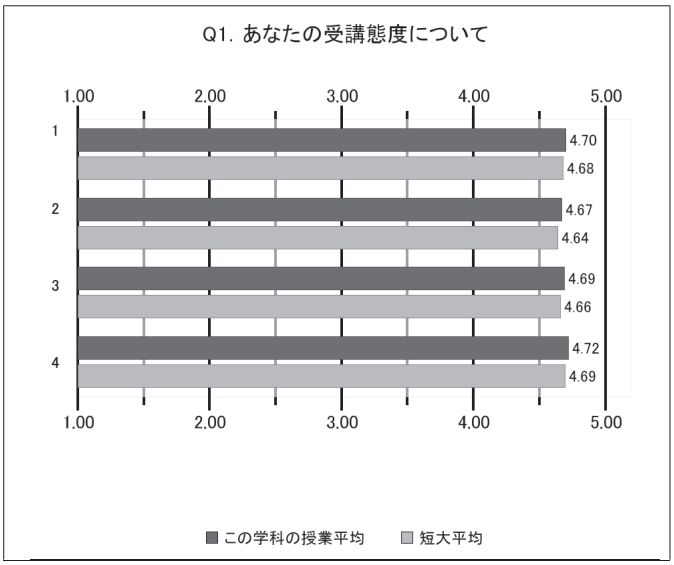
【食物栄養科　後期】

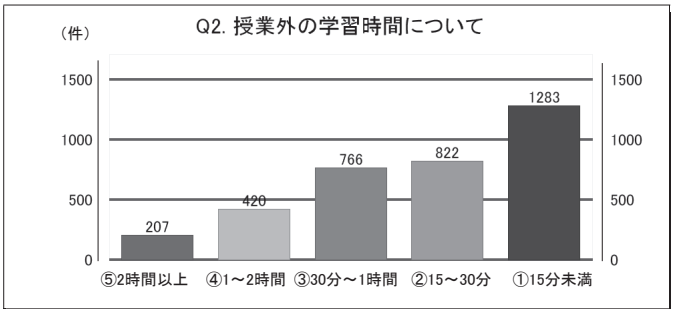
教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
海陸　留美	給食経営管理実習Ⅰ 臨床介護栄養実習	実習のグループワークにおいて、特定の学生に作業が集中しないように、学生１人１人の役割分担を明確にし、授業ごとに異なる内容を担当して習得できるように改善した。献立等の課題添削もタブレットを活用し、オンライン上(moodle)でコメントを定期的にフィードバックできるように工夫した。	Q1、Q2の全ての項目において概ね良い評価が得られた。Q1の項目に対する評価も全体平均より高く、学生が意欲的に授業に取り組んだことがわかった。Q2の評価も全ての項目において高評価が得られ、授業に対する達成度、満足度が高いことがわかった。	実習の役割分担について、学生からのコメントでも毎回の係を割り振ってくれて良かったというコメントがあり、グループワークが円滑に進んだことが伺えた。その他、プリント資料がわかりやすかった、献立添削が良かった、授業が丁寧でわかりやすいという高評価のコメントが得られた。一方で一部資料について説明不足が指摘されたものもあった。	昨年度の授業評価における学生のコメントを参考に、グループワークの役割分担の編成を行い計画的に実施したことにより、学生どおしの不平･不満が減り、学生が主体的に学習内容に取り組めたと思われる。説明の仕方、資料の準備、課題の添削指導については毎回高評価を得られているので、今後も継続していきたい。	授業内容については概ね良い評価が得られたので今後も継続していきたい。１年生の自由記述で、グループワーク課題の一部資料の説明不足が指摘されているので、来年度は解説の資料を添付するように改善していきたい。
岡本　　昭	公衆栄養学総論 運動生理学 健康管理概論 食の安全と鑑別	対面と遠隔授業のハイブリッドなので､特に対面授業では、スライド、資料や説明のアフレコはこれまで以上に丁寧に行った。 ２年生への授業が主体なので、復習に関しては対面の場合、復習問題を解きながら、学習を深めるなど方法を一部とった。また、事例研究を取り入れ、最新の知見をわかりやすくかみ砕いて解説することで、今、学習していることが社会に役立つ基礎になっていることがわかるような授業を増やした。	前期に比較して、最新の情報を取り込んだり、動画を取り組んだり、改良したつもりだったが評価が厳しかったので反省している。最新の研究を盛り込むのは難しく感じたのだろうか。一部は点数だけの評価だけで改善してほしい自由記述が書かれておらず、具体的改善点が見出せないものもある。回答数が少ないので、回答数を増やす必要もある。	パワーポイントや資料についてはおおむね好評だと思う。運動生理学では、健康センターなどで具体的に機器を使用しながら実施したことはよかった。後期は講義だけの授業であるが、話ばかりではなく色々と工夫をする必要がある。	後期は多い学生では週に４回もの講義がある。そのために似たような授業に感じてしまうのかもしれない。内容そのものは昨年度と変わらないが、遠隔になって学生への課題が多くなってしまったかもしれない。	評価が前回に比較して低下したことを反省し、多くの先生にアドバイスを受けた。講義だけの授業では、集中力をとぎらせないような工夫が必要で、内容を精査し、五感を使うような講義を行っていきたい。
工藤　孝一	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 生徒指導論	授業プリント､ワークシート、パワーポイントでの提示資料の改善を進めるとともに、オンライン授業に合わせて授業プリントを修正して、できるだけ詳しい解説をつけた。また、ほぼ毎時間の小テストの実施、フィードバックでの授業中の意見集約や提示など、moodleの活用を一層進めた。	授業は対面及びオンラインの両方で実施した。科目によって幾分の違いはあるが、教材・教具の利用、質問・意見が述べられるような配慮、授業に対する熱意・真剣さなどが概ね良好であった。一方、小テストなどで自宅での学習時間の増加を図ったが、授業外の学習時間が少ない科目があり、改善の必要を感じた。	授業プリントやパワーポイントの提示資料、説明の分かりやすさ、学生の質問や意見の機会、授業中の指名の仕方などに対して肯定的な記述がみられた。また、入学時点ですでに苦手意識を持っているであろう科目で、楽しかった、分かりやすかったという記述があったので、少し安心した。	授業プリントやパワーポイントの提示資料などの一層の改善や、質問や意見発表の機会を意識して設けたことなどが効果的だったと思われる。一方、授業外の学習時間については、小テストや演習問題の予習を除いては具体的な指示に欠けたところがあった。	授業プリントやワークシート、パワーポイントでの提示資料の一層の改善を行うとともに、授業をより楽しく進めることができるよう工夫したい。また、ICT機器のトラブルをより少なくするための事前チェックの徹底や、授業外の学習時間を増やすための予習・復習内容のより具体的な指示や課題等の内容について工夫したい。

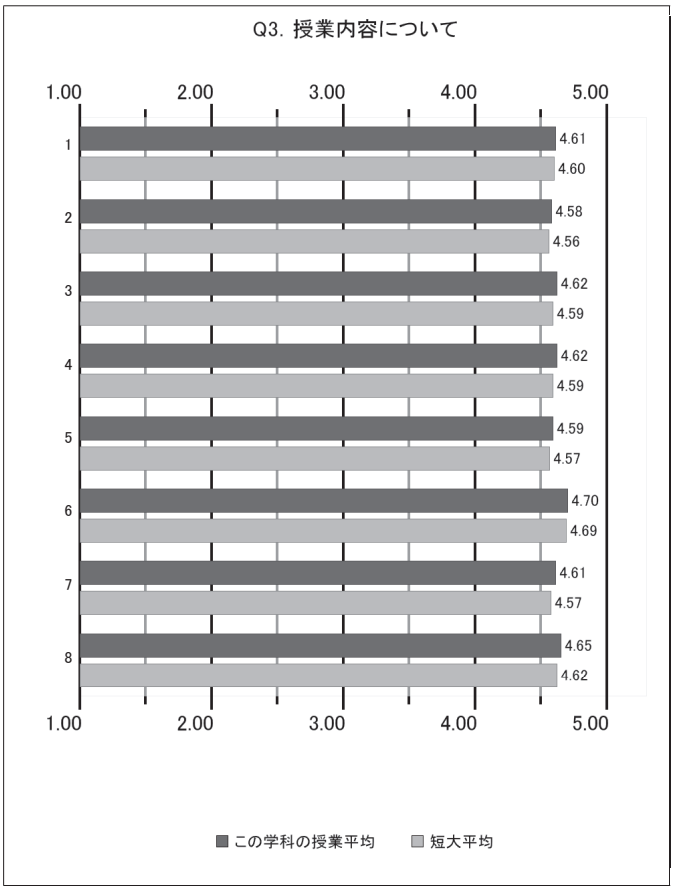
教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
河野　伸弘	法学１Ｃ・１Ｄ 生徒指導論／進路指導論	法学１Ｃ・１Ｄ、生徒指導論／進路指導論とも当初の９月21日から10月９日までと、最後の１月17日から１月22日までは遠隔授業を実施した。学生がインターネットや高校の教科書等で調べるように、パワーポイントで授業プリントを作成した。10月12日からの対面授業では５回の確認テストを実施して重要事項の理解･定着の工夫をした。	授業内容の評価　法学１Ｃ…4.33、法学１Ｄ…4.28、生徒指導論／進路指導論…4.53（全体平均…4.41）平均勉強時間　法学１Ｃ…1.55、法学１Ｄ…1.85、生徒指導論／進路指導論…1.92（全体平均…2.25）家庭学習時間が平均より少ない状況である。	遠隔授業：「授業プリントが分かりやすい」の評価であった。対面授業：「分かりやすい説明と確認テストで復習ができ理解できた。先生の熱意を感じた」と高評価であった。	法学１Ｃ・１Ｄは、シラバスを変更して15回（遠隔授業３回、対面授業12回）を実施した。遠隔授業ではインターネットや高校の教科書等自学学習を取り入れた。対面授業では５回の確認テストを実施して重要事項の理解・定着の工夫をした。生徒指導論／進路指導論は対面授業で３回の小テストを実施した。また、「小学校・中学校学習指導要領解説　総則編」を引用して、重要事項の定着と採用試験対策を実施した。	対面授業ができない場合でも、遠隔授業で補えることが分かった。ただし、具体例の提示等に限界があることも分かった。家庭学習時間を増加させるために、課題提示の方法・量等を含め今後改善していきたい。
東保　美香	栄養カウンセリング論 栄養教育論実習	講義の遠隔授業（計６回分）ではmoodleの確認テストやフィードバックを行い、学生の理解度を測るようにした。講義の資料はパワーポイントで作成し直し、遠隔授業でも理解しやすいように工夫した。対面授業では、ロールプレイングやグループ学習を実施しアクティブラーニングを取り入れた講義を行った。実習の対面授業ではグループ学習を主に行い、特に幼児期・学童期に対する媒体作成の時間を多くし、成果発表の時間も設けた。	講義・実習共にQ1の受講態度の点数が全体的に低く、特に実習科目では平均点より低くなり、実習に対して集中力や意欲が低い学生が多いことが分かった。講義・実習共にQ2の授業外の学習時間が短く、特に講義の時間数が短いことが分かった。Q3では、全体的に良い評価ではあったが、Q3-2が低く、理解度や到達度の確認ができていないことが分かった。	講義・実習共に説明が分かりやすいとの意見もあったが、授業を進めるペースが早いと感じている学生もいることが分かった。講義ではロールプレイングを実施したことで、実践力が身につき、また他者との意見交換がしやすいとのことであった。実習では自身の栄養評価を行う内容では、楽しく取り組めているとの意見もあった。少人数制のため発言しやすい環境であることが分かった。	グループ学習などアクティブラーニングを多く取り入れたが、学生が意欲的に取り組めるよう、理解度の確認や意見の回収ができていなかったことが原因であった思われた。また遠隔授業の資料作成おいて授業内容の説明や課題の説明が、パワーポイントのみの情報伝達になっていたため、理解度の確認ができておらず、授業外の学習時間につながらなかったと考えられた。	授業では個々の取り組み状況や理解度を確認し、特にグループ学習での媒体作成や発表では特定の学生のみが取り組むことがないように、実施内容を工夫していきたい。遠隔授業ではオンデマンド型授業だけでなくオンライン授業を多くし、集中力や意欲を上げる工夫を行い、また課題作成では説明不足とならないよう改善していきたい。
衛藤　大青	食品加工学実習 フードコーディネート論 フードマーケティング論	実習科目では、学生にはmoodle上でレポートを提出してもらったが、その際に小テストと紐付けを行い、小テストに合格しなければ課題を提出できないようにした。また、レポートはその回の班長（毎回交代制）が取りまとめて提出するようにした。講義科目の１科目は全てオンライン授業とし、毎回の講義でPowerPointをもちいた授業動画の視聴を行ってもらった。	実習科目では、Q1-4で高い評価を得られていた。また授業内容については全体的に高い評価を得られていたが、Q3-7で高い評価を得られていた。講義科目でも全体的に良い評価を得られていたが、特にオンラインで実施した科目において、Q3-4とQ3-8で高い評価を得られていた。	実習科目では「プリントなどがわかりやすかった」という意見を貰えていた。また「班学習が良かった」という意見も貰えていた。講義科目は「動画がわかりやすかった」「オンライン授業でも対面と遜色なかった」という意見を貰えていた。	実習科目では、班長が取りまとめて提出をすることで班の連帯感とそれぞれの責任感を促し、その結果としてQ1-4の評価や自由記述の意見などに繋がったものと推測する。また講義科目では、動画を配信する際に学生が見やすい・聞きやすい動画を意識して、マイクの設定や動画の編集などを行ったことが、Q3-8や自由記述の意見に繋がったと推測する。	実習制では班長制をより良く活用できるように工夫を続ける。また講義では学生がより興味をもって動画を見ることができるように、ソフト面も含めて工夫を続ける。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
藤岡　竜太	解剖生理学 基礎栄養学 食品学実験	講義では、以前から授業プリントの内容を黒板に板書して説明していたが、今回からはオンライン授業実施のため、スライドにして説明することにした。実験は、新規開講科目として、栄養士養成のためのモデルコアカリキュラムに遵守する内容で実施するように心掛けた。	回答者数が少なかったこともあるが、Q1-3, Q1-4 が特に講義の科目で平均よりも低かった。Q2 に関してはいずれの科目も時間数は平均より高い結果であった。Q3 に関しては概ね良好な結果であったが、Q3-7 が平均ほどの結果であった。また全体的に実験科目が講義科目より低い結果となった。	講義科目では「プリントが分かりづらい」「用語の解説がほしい」という意見があった。実験科目では「考察を書く際のポイントを教えてほしい」などの意見があった。授業説明については「分かりやすい」との意見があったことから、教材の準備を改善していきたい。	講義科目ではオンライン授業の対応などで授業プリントの準備が疎かになってしまった部分があり、教科書の内容が中心となって要点をきちんとまとめられなかった面があった。また実験科目では考察は学生自身に考えてレポート作成させるようにしたが、もう少し重要なポイントを伝える必要があった。	講義、実験いずれも授業プリントの内容を改善し、重要なポイントを分かりやすくして学生の理解力向上を図る。また、実験のレポート作成についてきちんと説明し、考察を作成する上での注意点を明確にして、レポートの作成を取り組みやすくするように心掛ける。
浜野　香奈	調理学 給食実務論 栄養カウンセリング実習	授業内容に沿ってテキストの他にパワーポイントで資料を作成し、抜粋して学生に配布した。重要な箇所は書き込み欄を設けノートを取らせた。栄養士実力認定試験の過去問題を予習復習に活用した。「給食実務論」では給食施設ごとの帳票類を作成する演習を取り入れ、「調理学」ではグループごとに一汁三菜の料理の調べ学習を行うことで、調理理論を学ばせた。「栄養カウンセリング実習」においては接遇やマナーに関する内容を多く取り入れた。	講義、実習いずれも Q3-7 の授業の達成目標の到達が平均点を下回っていた。Q3-4、Q3-5 は平均点を下回るクラスがあったが、自分自身の半生としても、話し方、講義の進め方、質問のしやすさなどについて見直しや改善が必要だと感じている。	パワーポイントや資料が見やすいという意見がある反面、わかりづらいという意見もある。学生に何をどう伝えたいか、重要な点はどこかを考えつつ、資料作成を行っているつもりではあるが、遠隔授業への対応も含め自身の IT 活用が十分でないことが反省点である。	学生目線で授業を行うことが大切だと考える。学生が興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を養うためには、導入の部分が非常に重要だと考える。他の先生方の授業を見学させていただいたことで、そのことを強く実感した。授業の進め方にゆとりを持たせ、質問をしやすいような工夫も必要と考える。	栄養カウンセリング実習で意見のあった「本格的な栄養指導を学びたい」、「給食実務論」であがった「先生の実体験をききたい」という意見は大切に受け止め、実務家教員として多くの事を学生に伝えていきたい。また遠隔授業になっても教える側、受ける側が戸惑うことの無いようにしっかりと準備を進め、moodle の活用方法なども含め、技術を修得していきたい。
伊藤　京子	調理実習Ⅰ 調理実習Ⅲ 進路指導Ⅰ 学校栄養指導論 教育実践演習（栄養教諭） 教育実習事前指導（栄養教諭）	実習においては事前に作業工程等の作成をさせ効率を上げたとともに個人指導にも努めた。またその他の科目については、課題に対するグループワークや小中学校での実践例を示して協議をする等の学び合いの時間を多く取り入れた。遠隔授業では事前動画撮影をしたり、学生とのやり取りができるようなワークシートや双方から発言ができる場を設定した。	得点は概ね良好であった。対面での実習ができたことと、学生が資格取得により関心が持てる課題やレポートに取り組ませた結果だと思われる。しかし授業外の学習時間が極端に短い学生が多く（得に調理実習）、その必要性を伝えきれていなかったことと、予習復習をしなければならないような授業構成ができていなかったことが要因だと思われる。	学生が意欲的に参加できる課題設定、メリハリをつけて授業を進めたこと、個々の困りに対応したことが高評価を受けているようだ。またオンライン授業ではグーグルフォームで意見集約をして結果を即共有したり、学生全員が発言できる場面を設けることで授業に集中でき、仲間とのコミュニメーションも高められることが確認できた。また 1,2 年合同で授業を行うことは大変有意義であることが分かった。	対面、遠隔ともに、学生が理解しやすい教材を ICT 等を活用して取り入れることが学生の満足度に繋がることが分かった。また自分自身が熱意を持って指導にあたれば相手にそれが伝わっているのだと考える。ただし、授業で身に着けた知識や技術を定着させるためには振り返り学習を定着させることが必要である。	実習では個別指導と集団活動での学び合いの両輪で進めていき基礎の定着と技術の向上を図り、全員が積極的に参加できる授業にしたい。遠隔授業の場合は自身で作成した動画、全員が参加できるワークシート等を取り入れ、こちらの意図が伝わるように努めたい。また実習ノート等の確認を定期的に行い家庭学習を充実させるとともに、聞き取りを行うなどをして家庭での調理の実態の把握もしていきたい。

学科別集計 初等教育科



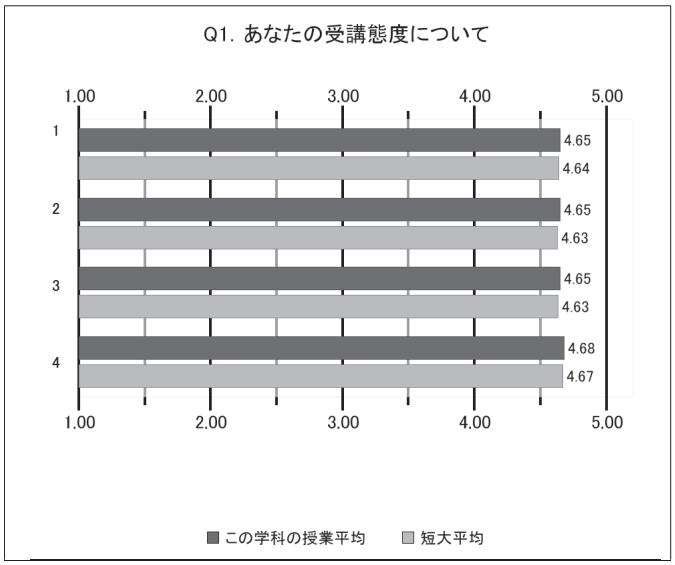


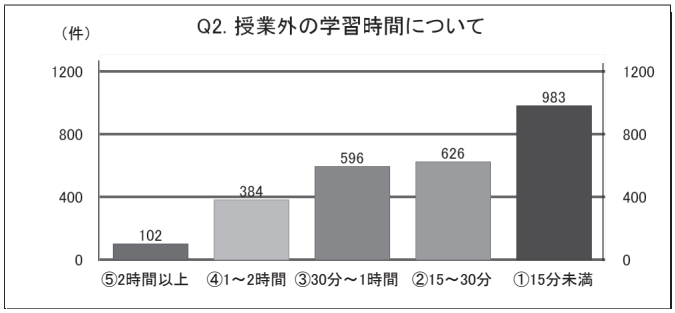


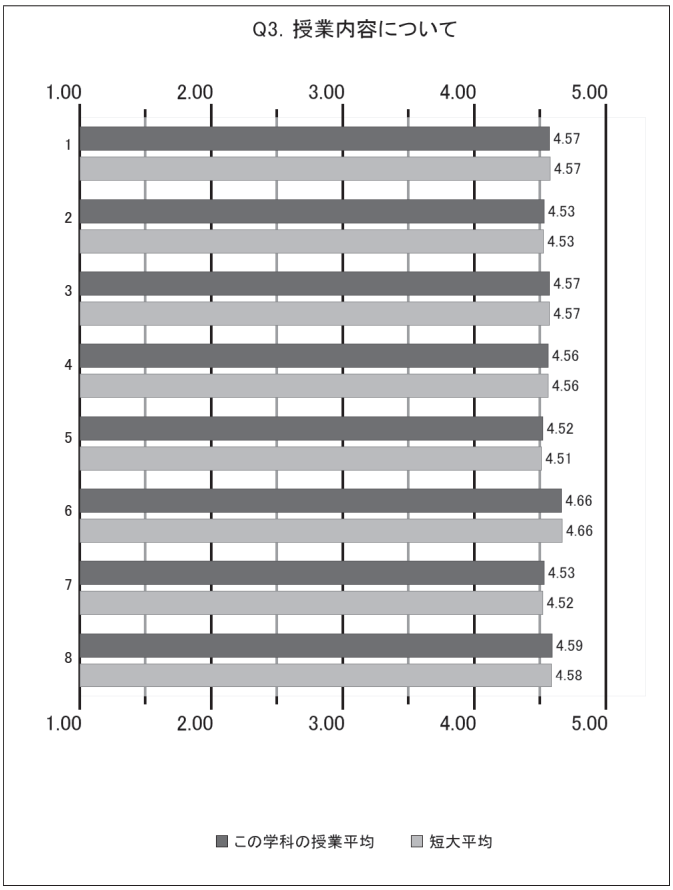
上段:回答者数 ／ 下段:割合

	設 問	5. そう思う	4. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	2. どちらかといえばそう思わない	1. そう思わない	あなたの講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。	2687 76.8%	622 17.8%	141 4.0%	36 1.0%	12 0.3%	4.70	4.68
[Q1] 2	あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。	2543 72.7%	782 22.4%	143 4.1%	26 0.7%	3 0.1%	4.67	4.64
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	2589 74.0%	755 21.6%	131 3.7%	20 0.6%	2 0.1%	4.69	4.66
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	2680 76.6%	680 19.4%	116 3.3%	21 0.6%	1 0.0%	4.72	4.69
[Q2] 1	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	（2時間以上） 207 5.9%	（1～2時間） 420 12.0%	（30分～1時間） 766 21.9%	（15～30分） 822 23.5%	（15分未満） 1283 36.7%	2.27	2.30
[Q3] 1	新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。	2437 69.7%	828 23.7%	180 5.1%	30 0.9%	17 0.5%	4.61	4.60
[Q3] 2	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	2386 68.2%	834 23.8%	204 5.8%	56 1.6%	16 0.5%	4.58	4.56
[Q3] 3	教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	2462 70.4%	787 22.5%	199 5.7%	35 1.0%	11 0.3%	4.62	4.59
[Q3] 4	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	2480 70.9%	769 22.0%	189 5.4%	46 1.3%	11 0.3%	4.62	4.59
[Q3] 5	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	2445 69.9%	735 21.0%	246 7.0%	44 1.3%	21 0.6%	4.59	4.57
[Q3] 6	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	2629 75.2%	714 20.4%	124 3.5%	19 0.5%	6 0.2%	4.70	4.69
[Q3] 7	授業の達成目標は到達できましたか。	2377 68.0%	894 25.6%	200 5.7%	18 0.5%	4 0.1%	4.61	4.57
[Q3] 8	コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。	2504 71.6%	795 22.7%	162 4.6%	28 0.8%	9 0.3%	4.65	4.62

学科別集計 初等教育科







上段:回答者数 ／ 下段:割合

	設 問	5. そう思う	4. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	2. どちらかといえばそう思わない	1. そう思わない	あなたの講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。	1942 72.2%	594 22.1%	116 4.3%	32 1.2%	6 0.2%	4.65	4.64
[Q1] 2	あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。	1885 70.0%	682 25.3%	106 3.9%	13 0.5%	5 0.2%	4.65	4.63
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	1902 70.7%	654 24.3%	115 4.3%	13 0.5%	5 0.2%	4.65	4.63
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	1963 72.9%	619 23.0%	89 3.3%	15 0.6%	5 0.2%	4.68	4.67
[Q2] 1	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	（2時間以上） 102 3.8%	（1～2時間） 384 14.3%	（30分～1時間） 596 22.1%	（15～30分） 626 23.3%	（15分未満） 983 36.5%	2.26	2.25
[Q3] 1	新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。	1723 64.0%	784 29.1%	165 6.1%	10 0.4%	3 0.1%	4.57	4.57
[Q3] 2	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	1676 62.3%	792 29.4%	188 7.0%	23 0.9%	10 0.4%	4.53	4.53
[Q3] 3	教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	1790 66.5%	698 25.9%	156 5.8%	31 1.2%	11 0.4%	4.57	4.57
[Q3] 4	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	1784 66.3%	690 25.6%	166 6.2%	39 1.4%	8 0.3%	4.56	4.56
[Q3] 5	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	1724 64.1%	695 25.8%	217 8.1%	39 1.4%	11 0.4%	4.52	4.51
[Q3] 6	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	1934 71.9%	610 22.7%	127 4.7%	13 0.5%	5 0.2%	4.66	4.66
[Q3] 7	授業の達成目標は到達できましたか。	1619 60.2%	879 32.7%	178 6.6%	11 0.4%	2 0.1%	4.53	4.52
[Q3] 8	コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。	1795 66.7%	712 26.5%	162 6.0%	16 0.6%	6 0.2%	4.59	4.58

初等教育科

授業評価に関する学科長見解（学科長　藤田光子）

（令和３年度前期）

令和３年度前期の学科全体傾向は 4.58～4.72 と高得点を示しており昨年より若干評価が高い。いずれの設問に対しても、4.5 以上と学生の授業に対する満足度は高いことがわかる。講義については演習と比較し評価が低くなっている。Q2-4 課題やレポートに積極的に取り組んだかについて自己評価が高く、授業の評価については Q3-6 教員の熱意が高評価であった。遠隔授業の実施もある中で学ぶことに積極的であり課題やレポートに積極的に取り組んだことがうかがわれ、また教員の授業に対する熱意も学生の評価が高く理想的な形であると言える。遠隔授業に移行されても教員学生ともに比較的準備ができていたことが要因ではないかと思われる。Q2-1 時間外学習は例年課題となるところであるが、遠隔授業により課題に取り組むことや自宅での課題学習も安定している。しかし受講科目が多くなることで１科目の課題にかける時間は限られてくる。moodle の活用による課題の量や様式には引き続き科目間での確認も必要となってくる。

（令和３年度後期）

令和３年度後期の学科全体傾向は受講態度・授業内容いずれの設問に対して 4.47～4.69 という高評価である。講義において Q5 における評価が若干低い。学生の質問や意見が述べられるような配慮については注視すべき点である。演習科目は高い評価がみられ、学生の満足する学びにつながっている。

対面授業と一部の遠隔授業やコロナ対策も安定的継続的になされており、対面授業、遠隔授業ともに授業内容についても満足いく内容であったことがうかがえる。しかし大きな変化ではないものの後期に向けて回答率を含め上昇傾向にないのは学科の対応を改善する必要がある。回答率の向上にも努めていく必要がある。

全般的に見て学生は自身の受講態度において自己評価が高く、満足している傾向にある。また授業の評価として教師の熱意、コロナ対策の下での授業に満足できている点は今後も継続し、さらなる授業改善にも取り組んでいきたい。

令和３年度 「私の授業改善プラン」 集約一覧

【初等教育科　前期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
仲嶺まり子	表現と鑑賞 保育内容Ｖ	遠隔授業では、授業目標と授業内容との関連性を明示し学習内容の理解を図った。対面授業では、始業時の挨拶の励行及び本時の内容説明を簡潔に行うようにした。授業時間の超過防止対策として、次回授業に向けての課題及び準備事項を本時授業と関連付けながら随時説明し時間効率アップに努めた。	ほとんどの項目で平均を上回る評価であることから概ね良好な評価結果と受け止めた。また、Q1における自己評価は高く学生が意欲的に授業に取り組んだことを窺い知ることが出来た。しかし、Q2が平均値に達していないことから課題提示に関しては今後の課題と考える。	自由記述では、グループ活動の有用性、模擬保育に対する助言の適切さ、現場をイメージした内容であったこと、提出した課題に平等な評価がなされたことなどが記載されていた。授業内容を分かりやすい言葉で説明することに努めたことや課題の評価基準の提示が学生の理解深化に効果的であったことが確認された。	グループ活動時に、各グループを回り学生と意見交換を行いながら活動の進行状況を確認した。また、模擬指導の内容や道具についても代替品を含め学生の考えを受け入れながら準備を進めたことが良好な評価につながったと考えられる。	始業時の話を簡潔にする。グループ活動においては、学生との意見交換時の時間調整を行いながら授業時間を超過しないよう留意する。授業内容と課題学習の関連性を明示することで課題への理解及び自主的取組を促進し時間外学習の充実を図る
工藤　豊文	教職概論 法学（日本国憲法） 数学	①わかりやすい授業（パワーポイント使用、説明を詳しくする、ゆっくりと説明する）を心がけた。さらに、パワーポイントの内容をわかりやすくした。 ②毎時間、復習テストを実施し、内容の定着を図った。 ③授業に関連した内容の新聞記事等を与えて、まとめさせる課題を課した。	クラスによって異なるが、評価は概ね良好であった。Q2-1「平均勉強時間」が低い。法学においては30分以下の学生が33名。ほとんどの学生が授業以外の学習がなされていない。教職概論では、授業に関連した記事の内容をまとめる課題を課すことで17名が30分以下、残りの学生が１時間程度の授業以外の学習時間を確保していた。	どの講義においても、「わかりやすい授業、資料、パワーポイント」「復習テストで内容の定着が図れた」といった自由記述であった。特に教職概論では、授業に関連した内容の新聞記事等をまとめる課題は文章を読み取り自分なりにまとめる力がついたとの感想もあった。また、「課題のまとめプリントが少し面倒くさいけどイラストなども含めて書くと褒められるのでうれしい」という感想もあった。	授業時間外学習時間については、課題を「課す」･「課さない」で大きな差が出るようだ。課した講座では評価が高かった。	①これまで以上に授業の資料、復習問題等に取り組みやすいものを取り入れる。 ②ゆっくりと説明することを心がける。 ③授業外の学習時間を確保させる課題を課す。
八幡　雅彦	英語コミュニケーションⅠ 指導法特論（外国語） 国際文化 進路指導Ⅰ	今までの反省に基づいてもっとも心掛けたことは教科書の内容をただ単になぞるのではなく、教科書の内容に沿った＋アルファの要素を加えて学生たちの関心を高め、学生たちの知識を増やそうとしたことである。オンライン授業に当たっては必ず提出課題に対しては返信をしたこと、場合によっては長いコメントを付したことである。また学生からメールで寄せられた質問・疑問に対しては必ず回答をした。	「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」に関しては妥当な結果、「国際文化Ⅰ」に関しては予想よりも低かったという受け止めである。「指導法特論（外国語）」に関しては受講者２名に評価を求めたが回答がなかった。また授業のための１週間当たりの平均勉強時間は２時間前後で、妥当なものと受け止めた。	「高校よりは内容は簡単だが、その内容の補足があったり、先生の経験などが聞けたりして充実した内容だった」という記述があった。これは教科書の内容に沿って＋アルファを教えようと心掛けたことの成果だったと思う。またスクリーンに示されるパソコンの文字が小さかったという意見が複数あったことから、今後改善の必要があると実感した。	オンライン授業の際、提出された課題に対して必ず受領の回答をしたこと、時には長いコメントを送ったことが良い意味で評価に反映されたと感じている。そして「パソコンの文字が小さい」「一部の学生しか参加していない」という意見がマイナス評価につながったものと思われる。	授業評価アンケートを振り返り、まず教科書の内容に沿って＋アルファの知識を与え授業をさらに充実させていくことの必要性を実感した。スクリーンに映し出されるパソコン文字が小さいという意見が複数あったことから、学生に見やすいパソコン文字の提示を行う。「多くの学生に参加を促しているのが良い」「一部の学生しか参加していない」という正反対の意見が混在しており、これに関しては実際授業で試行錯誤を行うことにより改善につなげていく。学生の提出課題・質問に対しては今以上にきめ細かに対応していく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
後藤　善友	情報リテラシー 理科指導法 情報機器論 教科特講（理科） （算数）	オンライン授業が一部継続する状況であったため、昨年の改善要望を踏まえ、提出課題をやや控えめにしたことに加え、動画による解説の工夫、提出課題の工夫、オンラインでの学生間コミュニケーションの工夫、学生からの意見収集の工夫に取り組んだ。	評価結果は概ね全体平均程度であった。オンライン形式で実施した授業については「質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていたか」がやや低い傾向であった。この点については今期に改善の工夫に取り組んできたが、まだ他の授業に比べて工夫が不足している。	自由記述では、解説動画教材の工夫や、オンラインでのディスカッションの工夫など、授業改善として取り組んだ内容について評価が高かった。批判的な意見はかなり少なかったことから、今期の授業改善の工夫は概ね効果的だったと考えられる。	今期の授業改善の工夫が学生にとって効果的だったのは、昨年のオンライン授業で学生から質問や相談をうけた経験から、学生がどこで躓くかをあらかじめ予測し、どのような事前解説が必要になるかについて、教員として学習しスキルアップしたことが要因だと考える。	自由記述をみると、授業の解説動画などを工夫すれば学生はそれをうまく利用しているようである（動画の再生回数はあまり伸びないが）。また、オンラインだと伝わりにくいということを前提に、毎回の授業毎に目標を説明したり、提出課題の内容緒や締切の説明を通常より丁寧にするなどの工夫は学生に好意的に受け入れられたようである。今後の授業ではオンライン形式に限らず、対面授業でもこれらの工夫を継続したい
藤田　光子	器楽Ⅰ 器楽Ⅲ 指導法特論（音楽） 音楽科指導法	前期科目は一部遠隔授業期間があったが、概ね対面にて授業を実施であった。対面授業のなかでも実技的内容に一部制限があったため、内容を変更工夫しそれらを補いながら授業を進めることが出来た。学生にも説明を加えながら感染拡大防止に努め、順調に実施できた。	概ね良好である。複数担当の科目についてはクラスによるばらつきがみられたが全体としては概ね良好であると言える。科目によってはQ3-2に数名どちらともいえないという回答があり注視すべき点である。	科目によって自由記述に差が見られた。内容が難しいと感じている学生がいることが分かったため、進め方の速さについては再考しなければならないと感じている。複数担当の科目においては内容にばらつきが見られ、教員の態度に関する記述も見られたため全担当者での共有と再確認が必要である。	これまで１年次の科目と関連付けながら進めてきたが、一部の学生が履修していない状況であり、進め方に工夫が必要であると感じた。そのため内容の理解度と到達度については再度検討する。	全員の理解度を確認しながら進めていく必要性を感じている。また履修者の数が大幅に増えている科目においては内容の一部変更も考慮し改善する必要性があると感じる。科目の特性上非常に苦手と感じる学生がいるため、教育現場での指導に必要な内容を多く取り入れたが、基礎的内容も扱う時間を増やす必要があると感じた。また複数担当の科目では担当者全員での情報共有を継続的に進めていく。
伊藤　昭博	保育内容Ⅴ 図画工作 保育内容Ⅴ	保育内容Ⅴ、図画工作共にmoodle上に記載した授業概要を基に対面での授業を実施した。制作の手順も対面での説明と同時にmoodle上でも確認できるようにし、作品の提出については、moodleを活用し提出状況の把握ができるように改善を図った。また、制作後の振り返りについても学生本人の理解度が把握できるよう図解入りの説明書きをmoodle上で提出してもらった。	「図画工作」の評価は、どの項目も平均を上回る値であった。「保育内容Ⅴ」は、３クラスの評価で、ほとんどの項目で平均値を上回ったが、１クラスの１項目Q3-5で平均値を下回った。「図画工作」、「保育内容Ⅴ」で平均値を上回ったクラスは、全ての項目で4.63 ～ 4.94であった。一方、「保育内容Ⅴ」の１クラスで１項目のみ平均値を下回ったQ3-5で4.44であった。	「図画工作」、「保育内容Ⅴ」とも良いと思う点では、身近な材料でいろんな作品が制作でき、楽しかった。グループで協力して作品を制作することで友人との関係が深まった。将来、保育の現場でも役に立つものを学ぶことができた。ムードル上の説明も解り易く工夫して制作することができた。改善点では、教員の説明が聞き取れない時があった。授業の振り返りの時間が足りなかった。机の上が汚い時がある等の意見があった。	良いと思う点では、moodle上で身近な材料で保育の現場でも活用できる制作方法を写真と図解で説明できたことが要因かと思われる。改善点では、マスクをしていることで声がこもり説明が聞き取れなかったことが要因かと思われる。授業の振り返りに関しては、制作に要する個人差があり時間の確保が難しかったためか。	授業の説明に関しては、moodle上での解説と対面授業を効果的に組み合わせ、学生が理解し易いように工夫改善を継続していく。また、学生が質問できるようmoodle上でも質問項目を設け、適宜対応できるように改善を図っていく。対面授業の際の説明に関しては、進度に応じて質問の時間を確保し学生が満足できる授業が展開できるように工夫改善を図っていく。振り返りの時間に関しては、時間が足りない場合にはmoodle上で課題にするなど工夫改善を図っていく。
髙橋　俊二	生活科指導法 教育課程特論 社会科指導法 道徳教育指導法 総合的な学習の時間及び特別活動指導法	教科等の指導法の授業については、指導案の作成や模擬授業を多く取り入れた。教職に関する講義が中心になりがちな授業については、自身の体験談を交えた授業を行うとともに、授業の最後に「振り返りの課題」を設けて、授業内容の定着を図った。	評価は、概ね良好であったが、平均を下回る項目もあった。Q3-6「教員の授業に対する意欲・真剣さ」は高い評価であったが、Q3-5「学生が質問したり、意見を述べられるように配慮」の項目では、評価が低かった。	「自分が小学校の頃の活動を思い出しながら、それにつながる活動や説明があった」「学習指導要領を丁寧に説明してくれた」等の記述があったが、反面「学習指導要領の説明だけであった」「討議する場面が少なかった」等の記述があった。	授業の中で、自らの小学校の教員時代の失敗談や子どもの成長する姿の話が高評価につながった。しかし、学習指導要領を細かく説明しすぎ、指導案の作成や模擬授業の回数が少なかったことや討議などの場面が少なかったことが、評価が低かった要因である。	学習指導要領の説明と指導案作成・模擬授業の割合を考えた授業を行う。講義が中心になりがちな授業については、学生が何について討議したり、発表するのかを再度検討して、討議や発表の場を増やしていく。授業の最後での「振り返りプリント」は、学んだことが定着すると好評であるため、課題をより吟味して行っていく。また、授業内容に沿った小学校の教員時代の体験談も多く取り入れていく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
落合　　弘	教職概論 教育方法論 法学	① ICT 機器の活用（特にオンデマンドでも活用可能な動画教材）を一層進める。 ② 1 時間完結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。	① ICT(特に動画教材) の使用はオンデマンドでの活用が容易であり、学生に好評であった。 ②一時間完結型の教材構成は有効であり、ワークシートの活用も学習に取り組みやすいとの声があった。 ③時事問題について「動画でニュースなどを紹介し自分たちで意見を主張する場面場がよかった。」などの回答があり、継続したい。	概ね好評の記述が多いので、今回の方法を継続する。オンデマンドでは、少数だが「課題がとりくみにくかった」という記述があり、コンピュータの扱いに慣れていない学生がいることを意識して、対面時にサポートする。	ICT の活用、動画教材の活用、時事問題の教材化は学生の学習にとって有効である。オンデマンドでの授業でも動画教材は有効である。学生たちにとって実用性の高い教材（紙芝居､手遊）などを適切に教材に組み込んだことが好評であった。	① ICT 機器の活用（特に動画教材）を一層進める。 ② 1 時間完結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。
雫石　弘文	特別支援教育論 教育原論 特別支援教育総論 総合的な学習の時間及び特別活動指導特論	前期のほとんどは対面で実施できたので、模擬授業の実施や VTR の視聴等、様々な工夫ができた。対面であったために、PPT に直接表せないエピソードを説明に盛り込み、学生に問いかけながら授業を進めることができた。質問にもその場で対応することができ対面授業のよさを改めて実感できた。	評価はどの授業も高かった。対面授業による丁寧な対応が評価されたと思われる。専攻科には授業外の課題も適宜課したが、短大の学生には、多くの課題を出さなかった。そのため短大については授業外の学習時間が 30 分未満の学生が多かった。今後、具体的な課題を与えることも検討したい。	講義の際のゆっくりと丁寧な口調、PPT のわかりやすさ、学生に問いかけながら進める授業の仕方については、全授業の自由記述で高評価だった。今後も継続したい。	昨年度は、オンライン授業でも双方向のやり取りができるように工夫することで、学生の満足度に迫れることが分かった。ただし，模擬授業等は、対面授業で実施しないと理解が深まらない。本年度は、模擬授業の準備から当日の発表までじっくりと時間をかけて行えたことは学生の理解の深まりにつながったと思われる。	昨年度はオンライン授業の限界を感じたが、本年度は対面授業が実施できたため、学生の授業に取り組む姿勢が見え、適宜様々なアドバイスもできた。コロナの状況にもよるが、可能な限り対面授業を行い、学生との人間関係を深める必要がある。特に、初めて大学生になった短大 1 年生には、対面授業で大学の授業の面白さを伝えながら、我々教員との人間関係の構築を図ることは重要である。後期はオンラインも必要になりそうだが、PPT 等の工夫により少しでも対面授業のよさに近づけるように努めたい。
伊藤佳代子	社会福祉 子育て支援 社会的養護Ⅰ	教科書を示すだけでなく重要な知識を要約したレジメを作成し、学生の理解が進むように配慮した。加えて、小テストを実施して、知識・技術の修得が進むよう配慮した。また、合併授業でなくクラス開講の授業については、感染予防に配慮しつつ、グループワークを取り入れた。	多くの授業で授業外の学習時間が、全体平均を下回っている。同じ科目については教授内容を均一化しているつもりであるが、クラスによって結果が異なり、回答数も差が見られた。少人数で開講している授業の評価は、高い傾向にある。	DVD や動画を用いた授業については、分かりやすいと好評であった一方で、虐待等の辛い場面で心苦しいという意見があった。また、教科書の使用頻度が低いことと、大教室での 3 クラス合併の授業では他の受講生の私語が気になるとの指摘があった。	オンライン授業において、教科書の要点をまとめたレジメを中心に説明したため、学生が教科書で確認する時間をとることができていなかった。虐待等の深刻な現状を伝える動画の使用に際して、使用学生の心理的負担への配慮が不十分であった。	効率的な知識の修得のためにレジメを引き続き作成し、授業内ではレジメと教科書とリンクさせて丁寧に説明していく。オンライン授業では、学生の質問や意見を積極的に募り、一方的な知識の提示とならないように配慮する。同時に学生の学習ペースを見ながら、効果的な課題や小テストを引き続き実施していく。評価の高かった視聴覚教材について、記録シートの見直し等より効果的な活用方法について検討する。また、教材の内容について視聴前に説明し、必要に応じて学生の同意を得る等心理的負担に配慮する。対面授業においては、感染防止に配慮したグループ学習を実施し、学生の主体的な学びによる実践的な知識・技術の修得を目指す。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
古川　元視	教育方法論 国語科指導法 指導法特論(国語)	オンライン授業では，パワーポイントに声を入力し，できるだけ詳細に説明するように心がけた。また，教育方法論では，小テストを実施した。国語では，学校図書館を活用して，実際に絵本を手に取って分析させたり，pop を作成させたり，保育者になっても役立つような授業を心がけた。国語科指導法においては，指導案を作成させたり，模擬授業を行わせたり，実際に授業力が付くような授業を行った。	おおむね平均以上だった。教員になる学生が多いので，担任ができるような教師を育てていきたいと思っている。熱意などが伝わったので，そこは安心した。	ほとんどが熱心であった，分かりやすかったなどの意見であった。古川先生のような教員に出会ったことがない，古川先生みたいな教員になりたいといいう意見があり，こんな私に対してこのような感想を書いてもらって深く感謝している。と同時に，責任が重たいことも実感した。時間内に終わって欲しいとか，シラバスとおりにして欲しいなどの意見があった。	今までの教職経験で得たものを発揮することができたのではないかと考えている。また，同じ国語でも保育者志望クラスと教員志望クラスでは内容を大きく変えたからではないかと考える。また，厳しいところは厳しく，褒めるところは褒めるというメリハリが大事であると思った。ロイロノートを導入したこともよかった。	クラスの実態に応じた指導内容や指導方法を変えることが重要である。また，アクティブ・ラーニングの授業を基本として，授業を組み立てていきたい。特に，教員志望の学生には，本授業が，一問一答の授業や教師主導の授業からの脱却の一助になることを期待している。わずか二年間で卒業する学生に少しでも，学べてよかったと思ってもらうような授業を今後も模索していきたい。
三宮　知恭	教職概論 教育課程論 算数 指導法特論(算数) 教科特講(算数Ⅰ) 算数科指導法	○学修資料を読めば、理解できるように資料提供した。また、図や表、音声付動画をできるだけ、使い視覚的にも理解しやすいようにした。算数関係の資料は、用語の説明や定義などは詳しくして、理解してもらい、課題を解くことで見方・考え方を身に付けられるような課題シートをつくった。算数の「指導法関係」では「ロイロ・ノート」を使い、主に学習資料、教科書の資料や既成の学習指導案を提供し、毎回「板書指導案」を作成させた。代表のものを基に留意点や教具等を具体的に解説するようにした。算数では、教科書に載っていない数や演算記号の成り立ち、現実世界と関連させて、興味がわくようにした。	○「教職概論」「教育課程論」は、パワーポイント中心の資料で学んでもらったが、わかりやすいとの評価であった。ただ、細かいため、スライドが多く、要点を絞る必要がある。また、「熱心に具体例を話してくれた。」という声もあれば、「話が長い。」という声もあった。また、考えさせた後、学生同士で意見交換する場を設ける必要があると感じた。○「算数」では、「理解しにくい、難しい問題があり、段階的な問題にしてほしい。」という意見があった。○「授業のために予習や復習の時間」が全体平均よりも低い授業が多かい。与えすぎず自分で調べさせることに取り組ませたい。また、「教師の授業への熱意を感じたか」が教職概論や課程論で平均点が低い。講義的な話が多いことを反省した。	○対面やオンライン授業での「学修資料の量と時間」「話し合ったり、質問できるようにする」が課題であると受け止める。○対面授業では広い教室やスクリーンの大きさから「PPT の字が小さい、先生の話や説明がわかりにくい。マイクの音量調整を」という意見があった。拡大したり、書き込みの時間をとることに良い評価をしている学生もいたが、改善すべきであろう。○「算数科指導法」では、授業に役立つように「大分スタンダードに基づいた構造的な板書」を作成するようにした。できるだけたくさんの領域や実践例を学習させようと欲張った関係で、「資料が多すぎて、わからない。」という声も上がった。教員採用試験を受験する学生からは「役立った。」という声もあるが、受講者全員に基本を身に付けさせることを第一とする。	○授業でスライドが多い、内容を欲張り、資料が多いと、説明ばかりになり全体の集中度が下がる。○授業でわからない内容があった時に質問･解答をして、全体に共有する時間をとってない。手立てをつくっていない。○説明を聞く時間が長くなったり、スライドの字が小さくなったりするとざわつく原因になる。○学生の実態やニーズ（目標）を把握できていない。目指す免許により学習への温度差がある。しかし、受講生全員が主体的に取り組めるようにするべきである。	○文科省制作の「動画資料」を取り入れることは続けるが、時間が長いものがあったので、見るポイントを与え、「○分から○分のところを視聴する」などの指示をする。○オンライン授業でのパワーポイント資料の内容を精選する。○対面授業で、一方的な説明にならないように「数学的な活動」や考え、発表し、解決を目指す形をとる。○具体的な活動（自分で調べる。教具的なものを使い、実感させる）や、たがいに説明させるような活動を組む。○予習・復習（課題）が必然的に行われるように授業を構成する。○パワーポイントや板書の字の大きさ、色など工夫し、見やすくする。座席配置も教室により工夫する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
谷川　友美	乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅰ 保育内容Ⅰ 心と健康 子どもの健康と安全	（オンライン授業に関して）できる限り学生の疑問や質問に回答するように努めた。授業の内容に関しても、要望を尋ね、受講しやすい体制を整えるように努めた。（対面授業に関して）新型コロナウイルス感染症対策で、使用した机や器具の消毒を徹底した。また、必要時は使い捨てのエプロンや手袋を配布し、接触感染に注意をはらった。	演習科目は、集中して取り組むことが出来たことや意欲的に取り組むことが出来たと回答する学生が多かった。レポート作成等課題に対する取り組みに関しても、積極的に取り組めたと回答する学生が多かった。授業外学習時間は30分～1時間といった時間の学生と15分未満という学生が多く、取り組む時間の少ない学生へのアプローチを検討する必要があると考えた。	資料の提示方法や内容や分量に関する満足感を記した感想が多かった。現時点でできうる感染症対策を徹底して、演習や話し合いの機会を短時間で設けたことが良かったといった感想が多かった。	授業の資料の提示に関しては、１つだけでなく、複数提示した。様々な考え方をテキストと合わせ資料を見ることで理解が深まったと考える。演習では、感染症対策を徹底したうえで行ったことが、理論のわかりやすさに繋がったのかと考えた。時間外学習の提示内容をより具体的にすることで15分未満しか学習しない学生数が減少するのではないかと考えた。	授業の資料提示内容をより精選して、多角的な視点で捉えられるように、今後も複数の資料を提示する。グループワークも含めた演習は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、実施していく。時間外学習時間の提示内容を検討して、1時間程度は時間外学習ができるような課題を課していく。質問や疑問及び授業の要望などは毎回学生に尋ねていき、学生の意見を授業に反映していく
中山　正剛	体育実技Ⅰ 体育科指導法 教科特講（体育） 進路指導Ⅰ 体育	オンラインでの授業については，２年目になるため，これまでの知見を活かして，学生が分かりやすいようにmoodleの作成やメールでの案内，教材準備（作成），課題の事例提示など，学生の視点に立って工夫して実施した．また，前回に引き続き，いかに学生が主体的に取り組むことができるかを考えながら授業を実施した．そのためにも，提出物のフィードバックや学生からの質問への迅速な対応などを意識して実践した．	すべての科目のほとんどの項目で全体平均以上の結果であったことは，コロナ禍でのオンライン授業であっても工夫したことが評価されたと捉えている．ただし，授業によっては，これまで意識してきた，Q3-6「教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか」の項目において，平均以下の科目があった．前回までは，個人で受け持った授業のすべてが4.8以上であったため，非常に残念である．次回の課題としたい．	体育科指導法では，moodleでの他者評価を無記名にして全員に示すことを，これまでしてきたが，今回初めて，「匿名だと嫌な書き方をするから氏名を出して示してほしい」という要望があった．ここは，次回の検討課題としたい．	以前より，moodleを活用していたため，今回のオンライン授業でも比較的スムーズに実施することができたことがおおむね良い数値になっている要因だと思われる．改善点としては，グループワークやプレゼンテーションなどを授業の内容として意図的に多くしているが，それによる不満（グループワークで協力しない人がいる，他者評価にひどいことを言う人がいる）が出てきているところである．ただし，良い結果の要因としては，こちらからの情報提供だけでなく，「自分だったらどうするのか」という課題や他者のプレゼンテーションを聞いての他者評価などの「アクティブラーニング型授業」であることも事実だと思う．	グループワークやグループでのプレゼンテーション，他者評価の際に，「グループワークで協力しない人がいる」や「他者評価にひどいことを言う人がいる」などの問題が出てきた．この点については，実際に現時点でも，グループで同じ成績評価としていないのだが，それが学生に伝わっていないことも事実であるため，その点について説明するようにしたい．また，他者評価の仕方についても，本人が嫌がるような言葉を用いないなどのルールを設けるなどして対応したい．ほとんどの授業で高評価をいただけたが，これに満足することなく，引き続き授業研究を続け，今回の結果を真摯に受け止め，より良い授業のための努力をしていきたいと思う．
渡邉　輝美	保育内容Ⅱ 保育内容Ⅲ 保育内容Ⅳ 保育内容総論	コロナウイルス感染防止対策に細心の注意を払った。換気やソーシャルディスタンス確保など自分なりに行える最大限の方法を実施した。アクティブラーニング型授業を積極的には行えなかったが、感染対策を講じながら最小限の範囲でグループワークを実施した。机間を回っての一人一人への指導や声掛けはあまり行えなかったが、必要な時はフェイスシールドを着用し、個別に指導した。	授業内容については、一方的に聞くのではなく、友だちの答えや意見も聞き、自分の考えを広げたり見直したりできるようできるだけ多くの学生に質問したり、考えを聞いたりする機会をもった。また、保育現場で役立つ教材を作るなどの演習型の内容も役に立ったようだ。どちらの内容についても、学生は一方的に聞くのではなく参加型の内容を望んでいることがわかった。保育現場の実際の事例や現状についての話はとても役に立ったという受け止めが多かった。	１年生には初めての教科ばかりなので、学修内容を「わかりやすく」説明することを心がけた。記述の中に「わかりやすい」という評価があったことはうれしかった。「実際の保育の場で役立つような内容」という記述があった。学生は現場で役に立つ「実践方法」について学びたいという気持ちが強いと考える。自分の勤務経験で身につけた知識や技術を今後も伝えていきたい。	保育現場での勤務経験から感じている事だが、現在も就職する保育者に望まれているのは「即戦力」である。そのことを踏まえ、短大での短い２年間でも、就職した翌日から保育士や教諭として保育を展開できる資質や能力・技術を身につけていくことが必要である。その意味からも保育実践者としての自分のスキルが役立っているのではないか。また、学生も実践につながる学びを求めていると思われる。	後期は遠隔授業であるが、オンデマンド及びオンライン授業におけるmoodle画面活用の知識や技術が伴っておらず、習得の必要がある。学生は多くの授業を履修するので、できるだけ能率よくポイントを押さえることが出来る内容を構築できるようにする。「幼児と○○」の教科については、演習が中心あることから、どのように学び何を経験すれば保育者としての実践力を身につけていけるのかを考えなければならない。PPTやワークシート、説明内容を精選して授業を組み立てていく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
髙橋　一成	教職概論 教育課程論	前期授業は一部オンライン授業だったが、ほとんどが対面授業であり、学生が興味を持ち意欲的に学習に取り組めるよう、写真や図等も取り入れたパワーポイントを毎時間作成するなど、資料提示の工夫に努めた。また、学習内容の定着を図るため、授業始めに「前時の振り返りクイズ」という小テストを実施し、答え合わせをしながら解説を行った。オンライン授業では、パワーポイントスライド一枚一枚に解説を加え、動画も学習内容に合わせて適宜視聴できるようにするなど、学生が理解しやすいような提示資料を作成した。	教育課程論、教職概論ともに、授業内容についてはすべての項目で全体平均を大きく上回り、全般的に高評価であった。また、本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間についても全体平均を若干上回る結果となった。毎時間実施した「前時の振り返りクイズ」という小テスト等を、学生が前向きに受け止めた結果だと思われる。今後も引き続き授業改善に努めていきたい。	自由記述では「先生の熱意が伝わってくる。こちらのやる気も出る」「説明が丁寧でわかりやすい」「ワークシートが統一されていてやりやすかった」など全般的に良好なコメントであった。また、「自分たちで考えたり、何人かで意見を交わす機会があってとても良かった」「先生だけが話すのではなく、学生にもしっかり意見を聞いていたのは良いと思った」というようなコメントもみられた。コロナ禍ではあるが、感染対策をしながら、引き続き「わかる授業」をめざして、しっかりと授業準備等を行っていきたい。	学生が意欲的に学習に取り組めるよう、授業の雰囲気づくりに努めるとともに、わかりやすいワークシートの作成、学習内容をパワーポイントで簡潔に整理し提示したこと等が、今回の結果の要因の一つであると考える。また、オンライン授業においても、NHK for School や文部科学省の配信動画等も取り入れた丁寧な資料作りを心がけたことも、このような結果につながったと思われる。	今後も引き続き、授業の雰囲気づくりやわかりやすい説明、提示する資料の充実と工夫等に努めていく。特にオンライン授業については、ガイドラインに則り、学生の質問等にメールなどで対応しフィードバックできるよう工夫していく。なお、これまで課題であった本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間の増については徐々に改善しているが、引き続き授業中に学習した内容と関連したレポート等も適宜課すなど、見直しを十分に図っていく。
米持　広美	乳児保育Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅰ 家庭科指導法	対面授業が中心であったが、オンデマンドを利用した対面授業に取り組んだ。また、オンライン授業と人数制限をした実習を組み合わせて行うなど、授業形態の工夫も行った。したがって、シラバス通りに行かない授業については、途中、日程、授業形態入りの改定シラバスを配布した。	おおむね高評価ではあったが、Q3-5「質問したり、意見が述べられたりする配慮」の項目が、オンデマンドが多かった指導法の授業で低評価であった。対面時には、必ず振り返りをさせ、質問を受けていがで、すぐその場で聞くということで、学生の困りの解決や意欲向上につながるのだと思う。いくらオンデマンド授業で質問ができるようにしていても、リアルタイム・対面授業にはこの点は及ばないようだ。	対面授業で　使用したスライドを moodle に UP したところ、オンライン授業になったとき復習できる、課題をする際に見て理解したとの記述があった。これは、通常授業でも続けていきたいと思う。毎回のことだが、スライド製作に時間がかかりすぎ、余裕もって作れていないため、見直しをしておらず、誤字・脱字の指摘も多い。	現状では、実習を取り入れていくためには、一斉実習が難しいため、分散実習となるので、オンライン授業を有効に使い、実習効果をあげていく授業を進めていくしかないと考える。その点で問題になるのが課題の与え方だと思う。振り返り課題だけではなく、予習課題を与えられていないため、問題意識を持った実習にすることができていない点である。このため、学習時間が短かかったり、その場の質問が多く、次の授業で取り上げるような質問になっていなかったりしたためだと考える。	対面授業だけでなく、オンライン授業のよさもわかってきたので、ハイブリット型の授業を構想していく。途中から変更するのでなく、単元構想及び後期計画のシラバスから、日程と予習課題をはっきり示し、見通しを学生に提示していきたいと考えている。また、スライド、資料等早めに準備し、見直しと、課題の省察が必須だと考える。さらに、課題締め切り日を明確にし、アナウンスで伝える。さらに、オンデマンドでする授業の際には、困りや質問等がフィードバックできる仕組みだけでなく、アプリを使ったグループワークを取り入れ授業の活性化を図りたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
大田　亜紀	外国語指導法 英語コミュニケーションⅠ 進路指導Ⅰ	１年生の「コミュニケーション英語Ⅰ」は、英語に不安のある学生が多いことを措定し、enjoy mistakes! を合言葉に、発話不安を軽減すると共に英語に対する苦手感、抵抗感を和らげるようにした。テキストベースで実施はしたが、実際に簡単な英語をつかってコミュニケーションできる活動等も適宜取り入れるようにした。「外国語指導法」では、ロイロノートを活用した授業を行なった。今後、小学校教員に求められるITスキル向上と新しく始まった教科外国語科の指導力向上のため、授業場面を重い描きながら理解が深められるように努めた。	どの授業においても、学生からの評価は高い結果を得ることができた。学生の活動を中心にすすめてきたので、受け身的ではなく能動的な学習スタイルは、学生にとって評価が高かったと捉える。「外国語指導法」では、ロイロノートを使った模擬授業づくりに対して肯定的であった。「英語コミュニケーション」では、進度がゆっくりであったことが学生にとっては良い流れであったようである。	「英語コミュニケーションⅠ」では、オンデマンドでの遠隔授業が数回実施されたことに対して、「音声を繰り返し聞くことができる」「自分のペースでゆっくり進めることができた」「わからないことを繰り返し何度も聞いたり、確かめたり出来た」等オンデマンド学習ならではの良さを実感している。この良さを対面でも活かせることができないか検討したい。また、「興味深く参加できた」「わかりやすく面白かった」「英語は伝えようとする熱意が大事とわかった」等、苦手な英語を楽しく学べたという記述が多かったのは大変良かった。「外国語指導法」では、はじめてのロイロノート活用による授業であったが、使い方については周知に時間を要さず、模擬授業で活用することができていた。	Ｒ３前期は、対面での授業で進めることが出来たことで学生とのやりとりが遠隔より充実できた。英語コミュニケーションの授業では学生の英語に対する苦手感抵抗感とともに英語力の差（ハイクラス設定したが全体的に低い）もあり、できるだけわかりやすい活動を入れたり、コミュニカティブに実施したりしている。テキスト使用をせず、もっと学生が今後出会うであろう場面を想定した上で、外国語運用能力の向上や異文化理解を深めることができる内容を検討したい。これについては担当が複数であるので難しい面もある。	外国語指導法では、ロイロノートを活用した模擬授業を中心に授業を実施したが、短い時間の中で想像的に活用案を考えることができていた。ロイロノートを使用する上で、教室環境（ネット接続環境）が大きく影響し、機能が使えない回があったことが反省点である。教室設定も今後事前に確認する必要がある。ICTスキルの向上は今後の教員養成に大変重要である指導と位置付けて、今後もさらに充実させていきたい。英語コミュニケーションでは、アプリ等の活用の可能性を探り、もっと能動的でコミュミカティブな授業づくりができないかを考えていきたい。
安部えつ子	器楽Ⅰ 器楽Ⅲ 音楽 国際文化	器楽Ⅰでは非常勤講師のレッスンが多数であることから、音楽会議で授業評価アンケートの内容を共有した。また、学生指導の難しさや目標などを再確認し合った。	「あなたの受講態度について」「時間外の学習について」「授業内容について」のどの項目も平均以上であった。	大変好意的な意見が多く見られた。教師の教え方が丁寧で優しく分かり易かったとの声が多かった。	音楽会議で授業評価の内容を共有したこと、また学生指導について議論をしたことから、初心者や苦手意識のある学生への対応がうまくできてように思う。	今後も担当教師内で情報を共有し、学生に合った指導方法で演奏技術を身につけられるようにする。問題が起きたい時には、早期に解決するように、学生と非常勤講師の間に専任教員が入って解決に務める。
向井　隆久	心理学 教育評価・統計法 教育方法と技術 人間関係論 保育内容Ⅱ 子ども家庭支援の心理学 教育方法論	オンデマンド授業で履修者数が多い科目もあったため，ICTスキル，課題遂行能力の個人差が大きいことが予想された。そこで配布資料やパワーポイントなどの資料は，解説を文字入力した上で，動画に変換して誰でも簡単に閲覧できるよう工夫した。またmoodleの操作マニュアルの資料などを作成したり，課題の説明をしっかり掲載したりするように心がけた。またガイドラインに沿って課題提出期限を極力統一するとともに，学生が能力に応じて課題量の調整をできるようにした。	対面授業を実施できた科目や人数が多くない科目については，高い評価が得られており，問題はなかったようである。しかし，オンデマンド授業で受講者数が多い科目については，全体平均よりも評価が下がっている科目が見られた。オンデマンド授業であったこともあるが，学生の理解度や到達度を確認しながら授業を進める点を工夫する必要がありそうである。	授業内容や提示していた資料などは興味を引くものであり，概ね学習を深められたといった記述が多かったので，その点はよかった点である。課題の提出し忘れに対応するようにしていたこともよかったようなので，今後も続けていきたい。一方で資料や説明の文字が小さいという指摘があったので，文字の大きさをもう少し大きくした方がよさそうである。	対面授業に関しては全体的にかなり高評価であったが，学生主体になるような工夫や，学生の意見をよく聞いたことが特に良かったようである。オンデマンド授業に関しては工夫したところは功を奏していたようだが，履習者数が多い科目では，学生の理解度や到達度を確認すること（特に，ついていけていない学生の把握）が，しっかりできていなかった。この点を回線していく必要がある。	オンデマンド授業になっても，対面授業で実施していた教育の質をできるだけ確保するように，内容を削りすぎず，解説や補足資料をしっかり提供したり，moodleの操作マニュアルを提供したりすることは，学生の学びにも繋がっていることがわかった。ただし，文字数や情報量が増えることで，ついていくことが難しくなる学生がいることから，学生の理解度や到達度をワークシート内容や，小アンケート・小テストなどで，できるだけ把握する工夫をおこなっていく。また資料の提示順や見やすさ，解説の読みやすさなどを，より工夫したり，操作マニュアルを提示したりすることで，オンデマンド授業の負荷を下げたり，操作でついていけない学生を減らしたりする工夫を行う。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
島田　知和	保育内容Ⅱ 保育内容総論 保育内容Ⅳ 幼児理解の理論と方法	前期の授業では、保育事例や視聴覚教材を用いて、学生がより具体的に理解できるよう努めた。また感染症対策を十分に行なった上で、指導案作成から模擬保育まで実施することができた。オンライン授業ではZoomを用いた授業やオンデマンド授業では動画の作成、スライドの提示など、少しでも学生が理解しやすいような資料を作成した。	１年生の授業評価アンケートでは、高い評価が得られた。一方で２年生の授業評価アンケートでは全体平均より低い項目があった。	事例や視聴覚教材やスライド資料を用いた授業について肯定的な評価も得られたが、質問に対する回答に対して「合っているのか間違っているのかわからなかった。はっきり言って欲しい」との記述があった。	学生の回答を肯定的に捉えようとしていたが、それが曖昧な対応になってしまい、学生によっては何が良いのかわかりにくいものになってしまったと考えられる。	保育者の援助や子ども理解については、はっきりと正しい、間違っていると決めるのは難しい。そのため後期の授業では教員からはっきりと答えを教えるというよりも、学生と一緒に考えていく授業をするということを初めに伝える。学生によって多くの考えがあること、自分の考えをもった上で相手の考えを受け、さらに子ども理解や保育者の援助について深められるような授業づくりに努めたい。その他授業内容や資料の提示方法など概ね良い評価が得られた点も、引き続き改善していく。
石川千穂子	保育内容Ⅰ 保育内容Ⅲ 保育内容Ⅳ 保育内容総論	今期のオンライン授業を含む前期授業では、moodle上での適時の課題やPPTに説明をつけたものを上げる工夫を行った。学生からの評価もpptが分かりやすかった、理解しやすかったと好評価であった。対面授業では、双方向のやりとりができ主体性が取れるように、隣の席の人との意見交換やクラスでの意見（グループワーク）交換を取り入れた授業を試みたが、少ない人数でのグループであっても学生は、活動に意欲を持って取り組め活動、内容が良かったと高評価が得られた。	評価の得点は、概ね良好であった。またQ1予習復習に取り組んだ時間が、今までは大変少なかったが、１時間から２時間という時間に平均して増えていたことが、それぞれ自主的に授業を受け止め主体的になれたのではないかと思われる。オンデマンド授業では、「質問コーナー」を設けたり質問に対して、必ず返答をし、そのことについて次の時間の授業で質問箇所に触れたことが、良かったのではないかと思われた。	自由記述欄では、事例研修や実際の話を取り入れた説明などについて高評価を受けているようであった。座学だけでなく、実際に現場を見せた授業を取り入れた科目では、より高評価であった。感染対策を行い。無理のない時間に訪問させて頂いたが、そのことが功を奏し良かったと思われる。	オンデマンド授業でも、質問を丁寧に受け返したり、PPTに説明をつけるなどの細やかな配慮をすることで、学生は、対面とあまり変わりなく授業を受けることができることが分かった。更に、対面授業においては、より実践的な関わりを持たせられるような演習活動を積極的に工夫しながら展開していくことが、学生にとっても理解しやすさにつながり、主体的に授業を受け止めて自らの学習意欲に繋がって行くと考えられる。	対面授業が出来ない場合でも資料提示の仕方やPPTの提示の仕方をさらに工夫して学生との双方向でのやり取りができる授業構築を計画していきたい。また、対面授業では、科目的に演習科目が多いので、現場経験を生かしながらより実践感覚がつかめるような、事例や授業活動を更に展開していきたい。また、自由記述で、４限目５限目授業で、前の授業との影響で開始時間が遅くなったことから授業終わり時間ぎりぎり、時には５分ほど遅くなったことがあったが、そのことについて学生から授業時間が長くなり、電車時間との兼ね合いで困ったという記述指摘が見られた。今後は、授業時間終了について遅くならないように気を付けて改善していきたい。
菅原　航平	障害児保育Ⅰ 心理学 子育て支援 保育内容Ⅱ 進路指導Ⅱ 子ども家庭支援の心理学	対面授業では新型コロナウイルス感染予防に配慮しつつ、能動的な学びや学生間の相互作用が生じる課題となるように工夫した。また遠隔授業では、課題で学生の理解度を丁寧に確認しつつ授業を進めていくことを心掛けた。	講義・遠隔科目では、「Q3-2学生の理解度や到達度の確認を確認し、授業を進めていましたか」、「Q3-4教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか」は低評価だった。理解度確認は改善課題としていたが、遠隔・講義ではさらに工夫が求められていると感じた。	マスク着用の声掛けなどを行っていたが、「マスクを着用していない人を注意して欲しい」との意見があり、さらに指導を徹底したい。また、「発表の際に必ずポジティブなコメントをしてくれるので発言しやすかった」というものがあり、引き続き意識したい。	演習科目は、感染予防に留意しつつワーク等を工夫したことで良好な評価を得られたと考える。講義科目は、おおむね良好な評価であったが、遠隔授業の際に対面授業と同様の内容量・難易度で行ったため満足度が低下した面があると考えられる。	対面授業は、感染予防に留意しつつ教員･学生間の双方向性を意識して、学生の参加意識が高まるようワーク等の工夫を行う。遠隔授業は、聞き取りやすさの評価が低かったので、動画の録音環境改善やゆっくりはっきり話すことを意識する。また、対面と同様の内容・難易度では難しいと感じる学生もいたので、遠隔では内容や課題の難易度を再検討する。くわえて、moodleでの指示やメールでの連絡を確認しない学生が一部いるので、指示や連絡の方法、内容、タイミングなどの工夫を検討していく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
木戸　貴弘	進路指導Ⅰ 保育内容Ⅰ 保育内容Ⅲ 体育	今期の授業は新入生（１年生）の授業が多く、初めての大学授業でもあることを踏まえ、授業内容や資料の提示方法についてよりわかりやすく教授できるように努めた。また、昨年度の反省を踏まえ、教員と学生相互のコミュニケーションをより多く取れるように工夫した。加えて、質問を容易にできるように毎回の授業において moodle 上に質問コーナーを作った。	おおむね肯定的な評価を得ることができた。今後、検討が必要なこととして、クラスによって評価に差が出た項目もある。そのため、全ての授業を一様に実施するのではなく、クラスの雰囲気や理解度によって、補足資料を追加したり、説明の仕方を変えたりするなどして対応することが望ましいと考えられる。	「質問などを授業の最初に回答してくれるので授業に入りやすかった」などの意見から、毎回の授業で質問や疑問を moodle 上で受け付けたことが教師・学生の双方向からの意見や考えを共有できたと感じた。一方で、コロナウイルス感染症に対する不安な声も若干挙がっていることから、その対応については引き続き十分に考えて行く必要がある。	アンケートから肯定的な評価や意見を得ることができた。今期は特に１年生の科目も多かったことから、今後の大学生活を円滑なものにするため、教師と学生のコミュニケーションを図る場面を意図的に多く取り入れた。引き続き継続すると共に、今後は学生同士の考えを共有する場面をより多くなるように意識しながら授業展開を組み立てていく。	後期に入るとオンライン授業も行なわれる。授業の質を落とさないように、補足資料や映像教材等を用いて学生の理解が深まるように準備をする。また、理解するだけではなく、そのことを実践することができるような場面を積極的に取り入れ、実践力を養うことができるような授業展開を工夫する。また､実践の後には、学生相互の意見や考えを共有できる場を意識的に取り入れ、学び合いのできる環境を整える。今後も、コロナウイルス感染症の影響は続いていくと考えられるため、感染症対策に十分配慮して対面授業を実施していく。
助安　明美	保育内容Ⅴ	５限目の授業である事から、授業の展開が単調にならないよう注意した。授業内容が現場のどの場面で結び付けられていくか。子どもの姿をイメージさせながら実践を行った。オンライン授業では、話の速度に注意し、音楽表現などを取り入れながら 15 分程度毎の展開にして集中力が持続できるよう心がけた。	新任教諭という事で学生の気遣いが大いにあった回答だと思う。また全員が回答できていなかった点は自身のアナウンスが徹底できていなかったのだと考える。	授業展開の飽きさせない工夫（話し方、内容、グループ活動、イメージの共有）が引き続き重要だと考えられる。多くの授業アンケートに答える学生にとって、わざわざ記述をしてもらった事に感謝する。	授業内容と現場の様子がイメージしやすかったと考える。飽きさせずに授業展開が出来たかと考える。そもそも受講クラスの雰囲気が良く、全体的に真面目で意欲的に参加していただいた事に助けられたものと思われる。	オンラインにおいても一方通行にならないよう引き続き「共に考える視点」を計画していく。自由記述欄が多く提出される事こそが学生が積極的に授業参加している証拠だと考える。さらに記述の人数が増える努力（伝え方、現場の姿、自ら考え発信する力の引き出し方）を計画していく。オンライン授業の準備等については先生方に大変助けていただいた。早くシステムになれ駆使できるよう努力を要する。
大元　千種	保育内容Ⅳ 保育内容総論 保育内容Ⅳ	対面授業とオンライン授業と入り組んだ授業実施だったが、すべて授業資料を事前に moodle にアップし、課題提出も指示したので、大きな混乱はなかった。オンライン授業では授業説明動画を入れたことで理解を図ることができたと考えられる。提出課題から学生の意見や気づきを翌週授業で取り上げて共有できるよう工夫したので、相互の学び合いにも繋がることができた。絵本作家の長野ヒデ子さんに、絵本や紙芝居の教員による実演を録画し moodle にアップする許可を得られたのも良かった。	全体の平均の評価と比較すると、少し低い評価となっているが、授業者として予測どおりであった。一部の学生にとっての授業内容のわかりにくさ（授業者は丁寧に説明しているつもりがそうは受けとめられない）や課題の多さ（面倒くささ）、正解の無さ（自分はどう考えるか、それはなぜかと問う）などが影響していると考えられる。ある意味それを意図した授業で、あった。	moodle 操作のスキルアップと積極的に質問できない学生への配慮の必要性を感じた。早く課題を片付けたい、正解が欲しい学生が多いので、多様な見方や考え方に気づき、自分ならこの場合どうするかを考えあってほしい。一つの正解や「わかりやすさ」は必ずしも良いとは私自身考えていない。わからないからあきらめたではなく、考える機会になればよいと考える。	わかりにくいという意見については左記のとおりである。一方、わかりやすい、手遊びや絵本の読み聞かせなど実技を伴う授業の評価は高いのには、オンライン授業での説明動画や提出課題の共有、対面授業での実技での学び合いを取り入れたためと考えられる。	今後も、今年度同様にオンライン授業、対面授業に関わらず moodle に授業資料と課題をアップし、事情があって対面授業参加できなかった学生へのフォローアップも今後していきたい。そのためにも、授業者として moodle の機能を使いこなせるようスキルアップしておきたい。学生からの授業についての質問が出せるような配慮や工夫が必要であるため、提出課題の中に、質問（または、わからないところ）を記述するように設定をしていきたい。質問内容によっては、すべて教員が答えるのではなく､次の授業で学生同士共有し、意見交換ができるようにしたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
阿部　　淳	体育実技Ⅰ	食物栄養科と初等教育科の体育実技を合同で実施するのは今回がはじめてだった。前回の食物栄養科のアンケート結果が概ね良好であったため、前回通りのシラバスで実施し、学生の運動量の確保と３満を避けて感染予防策を万全にしたいと考えた。	食物栄養科では、10 名中１名に欠席や授業への取り組みの部分でネガティブな解答があり、コロナ渦での授業概要の説明やコロナ対策の授業の満足度で平均を下回った。残りの食物栄養科および初等教育科では平均を上回り、概ね良好な結果だった。	運動量や、みんなで運動が楽しめる、出来ない学生に対する補助などは、良いと思う点に上げられていた。今回は 55 名の学生が履修していた。その為、密を避ける観点から、授業を火曜日と金曜日に分け講師の先生に来ていただいて実施した。改善点に関する回答では、クラスを半分に分けた初等教育科で 11 件中７件が、その事に関する不満だった。	運動量の確保や、みんなで運動を楽しめるような工夫、出来ない学生に対して丁寧に教えることは、以前から意識し重点を置いていた。クラスを二つに分けなければならなかったことは、時間割を作成する際、学科間の交流を意識し過ぎて、体育実技を合同にしたことで起きてしまっていると考える。	授業内容ではある程度の満足を得ているため、大幅な改善は必要ないと考える。今年度はオンラインの影響で、シラバスの変更を余儀なくされたため、種目数を減らさなくてはならなかった。次回はシラバス通りの種目数を確保したい。今回は２回のオンライン授業があったが、次回からは極力対面で運動量を確保しながら講義を進めていきたい。どうしてもオンラインにしなければいけない時には、その内容の説明と、その後の授業内容の変更について、より丁寧に説明していきたい。体育館の暑さに対する不満も２件確認された。エアコンの導入も検討して欲しい。今年度はじめて食物栄養科と初等教育科の体育実技を合同で実施したが、今回のアンケートの改善点に関する回答では、同じクラスを二つに分けたことに関する不満が多く、学生は他学科との交流よりもクラス内の交流を望んでいて、学生の思いには応えられていなかったのではと感じている。次回からの時間割に生かしていただきたい。
岩本　貴光	体育実技Ⅰ	新型コロナウイルスの蔓延による影響を受け，オンライン授業と対面授業をミックスして行う形式で実施した。なるべく，オンライン授業では，学生らが興味関心を持つような，内容となるように自宅で気軽にできる内容を精選した。	すべての項目において、平均値より高い数値を評価して頂いた。本年は、新型コロナウイルスへの対応を第一に考え、より学生が授業に興味関心が沸く授業展開を心がけた。特に学生らが達成感、充実感を授業終了後、実感できるよう内容を通常より分かりやすく丁寧に行ったことによる結果であると受け止める。	やはり，体育という科目は，１年次ということもあり同級生と触れ合い分かち合う場面が展開できる科目なので，もっと実技をしたかったという意見が多かった。	内容が充実していて達成感を感じる授業との評価を頂いたが、一部、オンライン授業の課題が難しいとの評価があった。その中で次年度の課題として，先ず１点目は、授業展開の工夫の中でオンライン授業の出席確認の際に、授業時間にアクセスをすることと課題の提出、両方でワンセットにして一時間の授業完了としたが、Zoom 授業の時は引き続き行うが、オンデマンド授業の時は課題の提出を持って出席とみなす、といった方法を取る。２点目は、オンライン課題の量を今一度考える必要がある。他の授業もオンライン授業となり、学生らの課題が非常に多い現状がある。作業能力の低い学生には期間が短すぎたので，もう少し長いスパンが必要である。	他の授業との絡みで学生の移動や電波の不都合で欠席になることがあるとの報告があったので，授業時間帯だけでなくその週の間に，課題の内容を確認して，期間までに提出した者は，可とするなどといった対応が必要であると感じた。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
野村　文宏	哲学	出張などもあり、結果的に５回ビデオ録画によるオンライン授業となった。教科書を読み、それを読解し、必要な箇所はiPadを画面共有してApplePencilで図が言葉を書き込み説明した。対面の授業においては、例年通り、自分がかつて受けた哲学の先生たちの授業の「良い部分」を改良再生産した。敢えていえば、そのつど、よりよい言葉を選び言語化することに力を注いだ。	全般的に評価のポイントが平均に比べ低いことに驚いたが、詳細に見てみると一部に低い評価を付けた学生がおり、それが影響していると思われる。高い評価を付けた学生もいて少し安心した。	「良いと思う点」については、私の意図が伝わっていると感じ安心した。他方、「具体的に何を勉強するのかがわからなかった」「教員の話の路線が外れすぎ」「私たちが活動できる場面も授業内で作って欲しい」などの自由記述もあり、戸惑っている。	教養教育としての哲学の授業としては、テキストも形式も内容も標準的だと思っており、テキストを「厳密に･きちんと読む」こと、それに基づいて自分の頭で考えてみることを提案する意図であったが、そのような授業形式・内容が一部の学生には退屈だったのかもしれないし、昨今の授業形式トレンドにも合致していないのだろう。私としては哲学の授業など、その形式においては何百年も変わる必要はなく、新しい授業形式を取り入れるより、テキストをきちんと読むことで学ぶべきことはあると考えているが、学生の中にはそのように考えない者もいて、両者の学問の学び方「観」の齟齬が要因であると考える。	左記、学問の学び方「観」の齟齬を解消すべく、学生の要求にどこまでも寄り添って、そのような仕方のうちで哲学の可能性を探ってみたい、とも自暴自棄的に思う。しかしながら、学生にすり寄るのではなく、自分の立場を堅持しつつ、学問分野によってさまざまなアプローチがあること、心静かにテキストと向き合うという学び方があることなどを理解してもらうよう丁寧な説明を心がけたい、とも思う。来年度はとりあえず後者のアプローチで改善策としたい。オンライン授業の工夫であるが、哲学なんて、本を読んで考えるだけなので、授業形式において本来工夫の余地は少ない。哲学対話などの形式も有効ではあるが、あくまでも補足的なものにすぎず、哲学そのものの理解には王道的な授業が相応しいと考える。パワーポイント等の工夫も学生がわかったつもりにはなるかもしれないが、哲学の場合、説明の切り縮めとなってしまう。言葉やイメージの説明を、よりよく言語化することで、ライブ感を出していきたい。

【初等教育科　後期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
仲嶺まり子	表現と鑑賞 幼児と表現	今回は、単元ごとに授業内容と目標との関連を説明することで達成目標の意識化を図った。また、グループ活動においても個人活動シートの提出を課すなど、学生一人一人の課題取り組み状況の把握を図った。	Q1.については、良好な評価から意欲的に授業に取り組んだことが窺われる。Q2.については、平均を上回ってはいるが個人差が見られる。Q3.については、平均に満たないものもあるが概ね良好である。特に６の評価が高い。	自由記述では、グループ活動における自由なグループ編成と発表までの準備期間の十分な確保に関する要望が見られる。また、実技系の活動が役に立つこと、学外での子どもたちとの活動が良い経験になったとの感想も見られる。	授業開始時の実技及びグループ活動や学外活動が良好な結果の要因と考えられる。その他、授業概要や到達目標の説明について全体構成との関連、グループ活動での説明と活動時間配分への配慮の不足が要因と考えられる。	授業概要の説明や到達目標について、全体構成と関連付けて説明を行う。課題提示と同時に調べ学習の方法などについて情報提供を行う。グループ活動の説明と活動の時間配分について配慮する。
工藤　豊文	教育原理 １年Ｄ、Ｅ 算数 １年Ｂ，Ｃ	わかりやすい説明､授業資料、パワーポイントを準備し、特に「算数」においては、説明の後に学生同士が教え会うことに重点をおいた授業を実施した。また、説明は学生の様子を見ながらゆっくりとすすめることを心がけた。授業内容の定着を図るための復習テストを毎回実施した｡さらに、小テストの最後に質問蘭を作り、質問がある学生にはていねいに回答し、次回の授業で全員に紹介・解説を行った。	対面授業とオンライン授業が共存したが、どの授業においても、評価は概ね良好と判断している。Q2の授業外の学習時間の確保への対策として、毎回課題を課したが、30分～２時間の学生が、前期75％で後期は81％になったようだ。なお、提出された課題については、必ず意欲のわくようなコメントを入れるようにしたことでしっかりと取り組む学生が増えたようだ。	「算数」において、友だちとの教え合いの時間がしっかりとあるので授業内容を理解して授業を終わることができたようだ。また、板書がていねいで不明なところもきちんとわかりやすく説明してくれ、いい勉強環境を遅れているなという感想もあった。「教育原理」における課題に対してまとめる力がついたとか、コメントがあり意欲的になる内容も多く課題をすることが楽しかったとの感想があった。	課題内容の精選、集団での学び合い、ていねいなフィードバックが重要であると感じた。当然ではあるが、学生の様子を観察しながら説明することも大切であると感じた。今後も対面とオンラインの共存した授業展開になると思うが、できるだけていねいな授業にしたいと感じた。	小テストや課題の目的をしっかりと理解し取り組むことができるように、今まで以上に授業資料、課題を精選する必要がある。また授業においては学生の様子を良く観察して進め、学生とのコミュニケーションを良くとり、集団での学び合いができる授業を実践する。さらに、自由記述の改善すべき点に「プリントアウトできない学生もいることも知って欲しい」とあった。今後も対面とオンラインの共存した授業展開になることが予想されるが、オンライン授業での課題の回答がスムーズにできる工夫をする必要がある。
八幡　雅彦	・英語コミュニケーションⅡ １Ｄ，１Ｅ ・教科特講（外国語） 専攻科１年	今までの授業評価の中で、一部の学生しか指名しないという指摘が幾度かあったので今回はまんべんなく指名するよう心掛けた。そのようにして対面授業で充実してやれていただけに、オンライン授業に移行し学生たちとの対話ができなくなり戸惑いを感じた。そこでオンラインに移行してからはコメントを送り対話を心掛けたが、１クラス40人の英語コミュニケーションではどうしても難しい部分があった。	あらかじめ授業の予習課題を与えた。これが「予習をしていたので授業をやり易かった」というプラス評価と「予習の答え合わせならオンラインでもできる」というマイナス評価に分かれた。また「はっきり喋ってわかり易い」という評価と、「何を言っているのか分からないことがあった」という正反対の評価が存立した。今後どのように対応したらよいのかが課題である。評定点は平均値より低かったが、４ポイントを超えているので目標はクリアした。	スライドを使ってわかり易いという好評価がある一方で、スライドをめくるのが早すぎるという批判があった。またまんべんなく指名するという好評価がある一方で、一部の学生しか指名しないという批判があった。批判の部分も素直に反省してスライドのめくり方、指名の仕方もさらに改善するつもりである。「苦手だった英語が楽しく学べた」という好評は胸にしっかりおいて、今後もそのような学生が増える授業を心掛けたい。	できるだけ授業を面白くしようと応用問題を増やしたことが評定点を前回よりも上げた理由だと感じている。まんべんなく指名した、そうでなかったと評価が分かれたのは、まじめな学生を多く指名し、意欲に欠ける学生は蔑ろがちになったのが原因と考える。意欲のない学生の意欲を少しでも上げることが今後の課題である。	対面授業でもオンライン授業でも、学生にとって同じように充実した授業にするためにはどうすれば良いのか。テキストの選定を含めて、現在試行錯誤中である。テキストは２年間同じものを用いてきたので変えるべきかどうか思案している。今のテキストだと対面御場合はまだまだ思い白い授業ができる余地はあるが、オンラインに移行したらただ単なる課題の答え合わせに終わるのではないか。YouTube をテキストとして活用することも視野に入れており、新年度開講までに前期授業を一通りやってみようかと考えている。
後藤　善友	数理・データサイエンス入門 理科	前期の授業評価アンケートの自由記述の要望等に基づき、授業の解説動画などを工夫した。毎回の授業毎の目標説明や、提出課題の内容等を通常より丁寧に説明するなどの工夫は自由記述を見る限り学生に好評であった。	全体的には他の授業に比べて評価点が低い結果であった｡特に、シラバスで実験を予定していた授業については、新型コロナの影響で内容を講義形式やオンライン形式に切り替えによる準備不足もあり、評価が低かった。	アンケート自由記述では、授業動画に対する評価は概ね高かった。特に、PC 操作を伴う課題については、動画で解説があると何度も視聴できるため高い評価を得ていた。一部の学生は掲示板等による質問などにやや抵抗を感じているようであった。	オンデマンド形式の授業動画は好評であるにもかかわらず評価が全体として低かったのは、対面授業と比べて学修成果のフィードバックが不足していたからだと考える。また、対面と比較してオンラインでの質問のしにくさを解消できていなかったことも原因だと思われる。	オンデマンド授業については、小テストの実施が好評であり、対面と比べて不足しがちになる学生へのフィードバックが重要であることがわかったため、次年度は小テストなどの頻度を上げたい。また、質問がもう少し気軽にできるようにオンライン掲示板の雰囲気作りにも注意したい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
藤田　光子	音楽 器楽Ⅱ	毎回の授業において到達目標を意識させながら授業を進めた。対面授業とオンデマンドが混合であったが、テキストと moodle を活用し、授業時間外においても授業の全体像が学生に理解しやすいよう工夫した。 複数担当の科目では各教員との情報共有・対面授業実施に向けた対策を徹底した。	全体平均を上回り概ね良好であった。Q1 は良好である。Q3 についてはクラスによる差があるものの、Q4,5,6 が高評価であった。 器楽Ⅱについては Q1-1 により学生自身が課題に向けて積極的に学修したことがうかがえる。また感染症対策を迅速に行っていたことが高い評価を得ている。	学生の意見の中に教師の声に関する記述が多く、聞き取りやすさは学生にとって非常に重要なポイントになる。資料提示や質問に答えてくれるかなどもこの科目を受講するうえで学修意欲につながっていると思われる。すべての学生の活躍の場が見られる授業をできるだけ確保したい。 器楽については担当教員による学生の感じ方に若干ばらつきがあるが、マンツーマンのレッスンに非常に高い評価を得ている。	学生の状況に応じた課題や授業の進め方等の工夫が、学生の学ぶ意欲につながったと思われる。 実技科目については明確な目標を示すことで意欲につながっていると思われる。感染症対策については引き続き徹底し安心した学習環境をつくることが重要である。	説明･振り返りを丁寧に行うことが、学びの深まりを見せていることが分かった。資料提示･聞き取りやすさ･質問のしやすさについてさらに改善する。課題の意味付けを丁寧に説明することを心掛ける。
伊藤　昭博	図画工作 幼児と表現 幼児と環境	「図画工作」、「幼児と表現」、「幼児と環境」の全教科で moodle 上に記載した授業概要を基に対面での授業を実施した。制作の手順も対面での説明と同時に moodle 上でも確認できるようにし、作品の提出については、moodle を活用し提出状況の把握ができるように改善を図った。また、制作後の振り返りについても学生本人の理解度が把握できるよう図解入りの説明書きを moodle 上で提出してもらった。、	「幼児と表現」、「幼児と環境」の評価は、ほとんどの項目で平均を上回る値であった。「図画工作」は、２クラスの評価で、１クラスは、ほとんどの項目で平均値を上回ったが、１クラスの１項目 Q4,Q5,Q6 で平均値を下回った。 「幼児と表現」、「幼児と環境」、「図画工作」で平均値を上回ったクラスは、全ての項目で 4.63 ～ 4.88 であった。一方、「図画工作」の１クラスで１項目のみ平均値を下回った Q4,Q5,Q6 で 4.29 ～ 4.54 であった。	「図画工作」、「幼児と表現」、「幼児と環境」で良いと思う点では、身近な材料でいろんな作品が制作でき、楽しかった。グループで協力して作品を制作することで友人との関係が深まった。将来、保育の現場でも役に立つものを学ぶことができた。ムードル上の説明も解り易く工夫して制作することができた。改善点では、教員の説明が聞き取れない時があった。授業の振り返りの時間が足りなかった。出席をとる際、周りの声がうるさく聞き取りにくかった。等の意見があった。	良いと思う点では、moodle 上で身近な材料で保育の現場でも活用できる制作方法を写真と図解で説明できたことが要因かと思われる。 改善点では、マスクをしていることで声がこもり説明が聞き取れなかったことが要因かと思われる。授業の振り返りに関しては、制作に要する個人差があり時間の確保が難しかったためか。	授業の説明に関しては、moodle 上での解説と対面授業を効果的に組み合わせ、学生が理解し易いように工夫改善を継続していく。また、学生が質問できるよう moodle 上でも質問項目を設け、適宜対応できるように改善を図っていく。 対面授業の際の説明に関しては、進度に応じて質問の時間を確保し学生が満足できる授業が展開できるように工夫改善を図っていく。振り返りの時間に関しては、時間が足りない場合には moodle 上で課題にするなど工夫改善を図っていく。
髙橋　俊二	教育原理 指導法特論（社会） 教育職特論 教育現場実習指導（事前・事後を含む） 教育実践演習（幼･小）	○学習指導要領の説明と学習指導案作成・模擬授業の割合を考えた授業を行う。 ○講義が中心にならりがちな授業については、学生同士の討議や発表の場を増やしていく。 ○授業で「振り返りプリント」や体験談を取り入れていく。	評価については、概ね良好であった。どの授業においても Q3-3、Q3-4 の評価は高かった。反面、講義中心の授業となり、Q3-5 の「学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされてといたか」については、後期も低い評価となった。	「授業で毎回出されるプリントがわかりやすかった」「指導案づくりが役立った」「先生の体験談がためになった」という記述がある反面、「グループ学習をもっと入れてほしかった」「もっと活動的にしてほしかった」等の記述もあった。	毎回の自作の教材プリントでの授業や教員時代の失敗談や子どもの成長する姿の話をする授業は、後期も好評であった。しかし、どうしても学生に伝えたいという意識が強すぎて､「グループ学習」等を多く取り入れることができなかった。	○学習指導要領の説明と指導案作成・模擬授業の割合を考えながら授業を行う。 ○学生に伝えたい気持ちを抑えて、学生が何について討議したり、発表したりするかを再検討していく。 ○授業の最後での「振り返りプリント」は学んだことが定着すると好評であるため、内容を吟味して行っていく。 ○授業内容に沿った小学校の教員時代の体験談も多く取り入れていく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
落合　　弘	教育原理 教職概論 教育方法論 社会	① ICT 機器の活用（特に動画教材）を一層進める。 ②１時間完結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。	① ICT(特に動画教材) の使用はオンデマンドでの活用が容易であり、学生に好評であった。 ②一時間完結型の教材構成は有効であり、ワークシートの活用も学習に取り組みやすいとの声があった。 ③時事問題について「時事問題を取り入れて、今現在の世の中について考えることができた。また今後に結び付けて考える機会となった」などの回答があり、好評価であった。	ICT 活用､動画教材の活用､ワークシートの活用は取り組みやすいとの記述が多く、継続する。「スピードが速い」との記述がある一方で､「早いテンポが良い」との記述があった。理解の速さや記述の速さが学生によって異なることを踏まえて、学生の反応と確認しながら授業を進める。	ICT の活用、動画教材の活用、時事問題の教材化は学生の学習にとって有効である。オンデマンドでの授業でも動画教材は有効である。学生たちにとって実用性の高い教材（紙芝居、手遊び）などを適切に教材に組み込んだことも好評であった。	①学生にとって実用性の高い教材（紙芝居や手遊びなど）を適切に教材化し授業に組み込む工夫をする。 ②１時間完結型授業の展開と、これに連動するワークシート、振り返りの小テストを使って学習を進める。 ③時事問題を適切に教材化することで、学生が思考を深める機会をつくる。
雫石　弘文	生徒指導特論 特別支援教育論 教育相談 介護体験指導 修了論文	後期は私自身の体調とコロナの関係でオンライン授業となったが、グループワークや集団討論に替わる対策として、各自の意見や考えをオンライン上で共有し合い、個人の学びを深め・広げるようにした。 さらに、質問に対しては次回の授業の中で可能な限り紙面上でのコメントをするようにした。ただし、リアルタイムでのやり取りができなかったのは残念であった。	オンライン授業中心であったが評価の得点は概ね良好であった．前期同様に専攻科には授業外の課題も適宜課したが、短大の学生には、課題シートの記述以外には多くの課題を出さなかった。そのため短大については授業外の学習時間のばらつきがあった。課題シートの内容を工夫して「授業外の学習」の充実を図る必要がある。	オンデマンドでの授業のために、PPT や配布資料を工夫した結果、それらに対してはわかりやすいという高評価であった。 また、本年度から介護体験指導は２名の教員で指導ができるようになったため、二人が適宜、分担・協力ができたことは学生にとっても安心感等がありよかったと思われる。	オンライン授業でも双方向のやり取りができるように工夫することで、学生の満足度に迫れることが分かった。ただし、昨年度のオンライン授業の時と同様に、グループワークや集団討論等はオンラインでは実施できなかった。 また、オンデマンドでは様々なエピソードを伝えることにも限界があるため、可能な範囲で対面授業と遠隔授業を効果的に組み合わせる必要がある。	学生がどのように授業や課題に取り組んでいるのかがオンデマンドでは全く見えない。コロナ等の状況にもよるが、対面授業を可能な限り行う必要がある。特に、演習や GW 等については、対面授業の実施が可能な期間に実施する等、授業の全体計画を臨機応変に変える必要がある。 また、短大１年生には、対面授業で大学の授業の面白さを伝ええることや教員との人間関係の構築も大切である。今期は自身の体調悪化で様々な工夫にも限界があったので、今後は上述のことを踏まえた授業の展開を心がけたい。
伊藤佳代子	子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 社会的養護Ⅱ	効率的な知識の修得のためのレジメを作成し、授業内ではレジメと教科書とリンクさせて丁寧に説明した。オンライン授業では、学生の質問や意見を積極的に募り、一方的な知識の提示とならないように配慮すると同時に学生の学習ペースを見ながら、効果的な課題や小テストを実施した。 視聴覚教材については、記録シートの見直し等より効果的な活用方法について検討した。	すべての授業が、平均値に近い回答であったが、事例検討や視聴覚教材を使用した科目は、学習意欲や課題に取り組む時間が平均を上回っている。演習科目では、最終の授業が遠隔授業になったため、制作課題の仕上げや発表の時間が取れず、満足度が平均を下回っている。	受講者が 100 人を超える合併授業では、学生の意見を述べる場が少ないと指摘があった。 視聴覚教材を活用した事例検討や知識を反映した制作（施設パンフレット作成等）は、学生が主体的に取り組めるため、わかりやすいと好評であった。	演習授業においては、コロナの感染拡大により急な遠隔授業となったため、学生の発表の場が確保できなかった。 知識の修得に関しては、暗記を要する小テストだけでなく、主体的に取り組む制作課題を併用することが有効であった。 ３クラス合併の授業では、個々の学生のニーズを把握することが不十分であった。	学生が質問や意見を述べやすいように、授業の進め方に配慮する。 新たな視聴覚教材を先行研究等から検索し、課題シートの様式を再検討して、より実践的な技術を修得する工夫をする。 新たな教材として、親の離婚や児童虐待を題材にした子ども向けの絵本を活用し、学生の学習威容を高める授業を検討する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
古川　元視	教科特講(国語Ⅰ) 教育課程論 国語１Ａ	授業前の課題を課して，それに対してグループでディスカッションし，全体で話し合うようなアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた。また，学生に進行・板書などをさせ，模擬授業や査定授業のイメージが湧くようにした。グループ学習をふんだんに取り入れ，協働的な学びを実感させうようにした。オンライン授業では,課題を提出させ,一方的な授業にならないように心がけた。	平均を上回っている部分は，質問ができるか，話し方がよかったかという項目であった。また,課題を課していたので，課題への取り組みは非常によかった。コロナ対応の説明の項目が平均より若干低かった。	授業を自分たちで進めることは実際に役立つなど好感的な意見が多いものの，いきなり進行をさせるのではなく，説明を十分に行うことが重要だと感じた。熱意が感じられるや学校のいろいろな面を話してくれるので，勉強になるということは，実務経験者としては嬉しい限りである。学科紹介のビデオ作成については，国語と離れているような感じがするという意見があったが，これも国語である。説明をしっかりすることが必要だと感じた。	授業を学生に進行をさせていることは，アクティブ・ラーニングを学ぶ上でも有効であると思う。また，毎時間のグループ学習も，実際に自分たちが行うことで，効果や課題を実感できることは将来役立つと考える。初めて，30 分程度の課題を課したが，学生からは予想を反して負担だったというような回答は見られなかった。	課題を与え,できるだけアクティブ・ラーニングの手法を用いて，学ばせたい。グループで協力的でない学生には，厳しく指導をしたい。
三宮　知恭	初等教育 　算数Ａ、ＤＥ 　教育方法論 専攻科 　算数Ⅱ 　教育原理 　修了論文 教育実習指導	スライドの資料だけでなく実物や捜査活動を行うようにした。また、学習の目的や成果物の説明をし、見通しをもたせるようにした。いくつかの授業では自分で調べ、レポートを作成したり、グループで協働的に学ぶように計画したりした。	専攻科の算数、教育原理は、評価が高い。初等教育の授業でも、１クラスだけの人数の授業は良いが、ＤＥクラス「算数」74 名では、「スライドが見えにくい。説明が一方的で理解できなかった。」という声があり、評価が低い。	丁寧な説明や具体物を使ったり、つくったりする活動に対する評価は高い。スライドの字が小さかったり、説明がわかりにくいが質問できなかった。という点は改善しなければいけない。まじめに受けようとしている学生には、内容は良いようであるが、周りの学生の私語があり、聞き取りにくかったり、集中できないという声もあった。	学生の声を聴きながら、より体験的な学修に変えたことが良かった。対面授業では学生の反応を見て、再度説明したり、まとめのワークシートの改善をした。スライドの作り方の改善や意欲的でない学生の指導が足りなかった。	具体的な学習資料や解説、教材の使用は続ける。 大人数の授業でのスライド資料の内容を簡潔にする。 質問できる時間や雰囲気をつくる。 私語の多い場合は、厳しく指導する。 一方、評価の高かった前時の課題シートの解説や学生の声をまとめて、みんなで共有することは続ける。 具体物を使ったり、日常生活での活用や隠れた素材から学習を始めることは、さらに研究をして進めていきたい。
谷川　友美	子どもの健康と安全 子どもの保健Ⅰ 乳児保育Ⅱ	シラバスの説明を丁寧に実施した。 時間外学習時間の量と質を考えて課題を設定した アクティブラーニングの実施を多く取り入れるように努めた	乳児保育Ⅱ・子どもの健康と安全は、授業態度及び授業内容の全ての質問に対して平均を上回っていた。 時間外学習時間は、15 分未満と回答する学生が約半数いた。 子どもの保健Ⅰは、Q1-1 は平均より低く、授業を休んだり課題の提出が遅れないで受講していない現状が明らかになった。	演習科目は、好評であった。更に演習項目を増やすような希望の記載があった。 子どもの健康と安全の科目における某クラスからは、事前連絡の遅延についての指摘があった。 子どもの保健Ⅰでは、ムードル上にアップした資料が多いと好評だった。 子どもの保健Ⅰは、遠隔授業で進められたため、取り組みやすいとの感想が見られた	演習科目は、実践的であり、現場にいかせる内容であったことが好評であったように考える。 ムードル上にアップする資料を厳選したことが、好評なことに繋がったと考える	学生のニーズを聞きながら、更に演習項目を増やすことも検討し、来期にのぞみたい。 メールが多く送られることによる整理が難しい状況と予測して、学生に配信する連絡は、シンプルかつ最小限にすることを心掛ける。 ムードルにアップする資料は２つ以上の資料をアップし、多角的な視点を持てるよう、厳選していく

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
中山　正剛	指導法特論(体育) 幼児と表現 幼児と健康	「教員が教える」というスタイルを出来る限り少なくし，「調べ学習・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション」などの時間を多くし，「学生が自ら主体的に学ぶことができる」方法を模索しながら授業を実施した．また，前回高評価だったmoodleの活用を，さらに学生が学びやすいように工夫した．	ほとんどの科目で全体平均以上の結果であったことは，オンライン授業ではなくても，moodleをうまく活用できたため，時間外学習の促進や，授業の振り返りが可能になったことが要因と捉えている．また，Q3-6「教員の授業に対する熱意･真剣さが感じられましたか」の項目はいつも気にしている項目だが，個人で受け持った授業のすべてが平均以上であったことより，こちらの努力が伝わっていることが分かり，この点は満足している．	今回工夫したところが，特に自由記述の結果として出ていた．具体的には，「それぞれの学生が担当箇所を学んで発表する機会があったため，自分の学びだけでなく他の学生からの発表も自分の学びに繋がった」や「自分たちで考えたり話し合ったりする時間があったので眠たくなる時間も無く集中できた」とあり，効果的であることが分かった．また，自分自身，意識していたプレゼンテーションに対しての教員からのコメントについても「発表に対して，丁寧にコメントも下さったり，追加説明もあり，分かりやすく復習もできました」とあり，継続していきたい．	以前より，moodleを活用して授業外学習や振り返りを意図した授業をしていたが，今回は，より学生が活用しやすい工夫をしたことも，今回の良い結果になった要因だと思われる．また，ALを増やす工夫も良かった点である．	今回の結果に満足することなく，引き続き授業研究を続け，学外のFD研修会にも積極的に参加したい．また，AL型の授業をさらに充実させ「主体的・対話的で深い学び」を推進していきたい．さらに，オンライン授業ではなくとも，授業をより良くするためにmoodleを活用し，授業外学習や授業の振り返りを促進するような工夫をさらに追及していきたい．
渡邉　輝美	(初等教育) 子ども理解と支援の方法 幼児と言葉 幼児と人間関係(C/B) 幼児と環境 教育実習指導 教育実習 (専攻科) 言葉と児童文化	遠隔授業では学生にわかりやすい方法や内容、対面授業では、換気やソーシャルディスタンス確保など自分で行える最大限可能な感染防止対策を実施した。グループワークなどのアクティブラーニング型授業を積極的には行えなかったが、感染対策を講じながら最小限の範囲で実施した。机間を回っての一人一人への指導や声掛けはあまり行えなかったが、指導案の添削など必要な時は、フェイスシールド着用で個別指導を行った。	対面での授業方法については、できるだけ多くの学生に質問したり、考えを聞いたりするよう努めた。学生は友だちの答えや意見を聞き、自分の考えも述べることが貴重な体験で、それが自分の知識や学びを広げていくと感じているようだ。アクティブラーニングの必要性を実感した。また、保育現場で役立つ指導案の作成指導が役に立ったようだ。また、保護者とのかかわりなど保育現場での実際の事例や現状についての話は役に立ったという受け止めが多かった。	遠隔授業でも対面授業でも、学修内容を１年生は「わかりやすく」２年生は「保育現場で役に立つ」を重点にポイントを押さえることを心がけた。記述の中に「わかりやすい」「指導案を学んだことが就職して役に立つ」という評価が多かったことはうれしかった。遠隔授業の実施に関しては、何教科も受ける学生にとって取り組む方法や学修内容がわかりやすいことが非常に重要で、意欲にもつながると思われる。 授業の方法についても、学生は一方的に聞くのではなく参加型の内容を望んでいることがわかった。	各教科で基礎となる内容や理論を学修するが、その際は「わかりやすく」ということがポイントになるようだ。そして、その学修後は、「それってそういう事なのか。」と理論や知識が保育現場で実際にはそうなるのかというような実感できることが必要だと思われる。つまり、学生は身に付けた知識をどう活用していくのか実践につながる学びを求めていると思われる。現場で役に立つ「実践方法」などについて、自分の勤務経験で身につけた知識や技術を今後も伝えていきたい。	遠隔授業のmoodle画面活用の知識や技術が稚拙で、習得の必要がある。学生は多くの授業を履修するので、できるだけ能率よくポイントを押さえることが出来る内容を構築していくようにする。対面授業から、急遽遠隔授業に切り替わった時に、期末の小テストがどうしてもレポート提出になってしまう。数多くの教科がレポートになることで学生の学修内容のポイントの習得度が分かりにくいと感じた。小テストの実施時期を検討したい。また、「幼児と○○」の教科については、演習が中心あることから、遠隔授業の際の実施内容について検討していきたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
髙橋　一成	教育原理 教育課程論	学生が興味を持ち意欲的に学習に取り組めるよう、写真や図等も取り入れたパワーポイントを毎時間作成するなど、引き続き資料提示の工夫に努めた。また、学習内容の定着を図るため､授業の始めに｢前時の振り返りクイズ」という小テストを実施し、答え合わせをしながら解説を加えていった。遠隔授業（オンデマンド授業）では、パワーポイントスライド一枚一枚に解説を加えるとともに、配信動画も学習内容に合わせて適宜掲載するなど、学生が理解しやすいような提示資料を作成した。	授業内容についての評価は、教育原理及び教育課程論ともにすべての項目で全体平均を大きく上回った。しかし、本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間については全体平均以下であり、課題の工夫等、今後の改善が更に必要である。	自由記述では「パワーポイントが見やすい」「グループワークや発表、クイズなど様々な角度からの授業で楽しく学べた」｢授業がわかりやすかった」など全般的に良好なコメントであった。今後も引き続き「わかる授業」をめざして、しっかりと授業準備等を行っていきたい。	授業で学習する内容をパワーポイントで簡潔に整理し提示するとともに、わかりやすいワークシートの作成、授業の雰囲気づくりに努めたこと等が、今回の結果の要因の一つであると考える。また、対面授業やオンデマンド授業においても、NHK for School や文部科学省の配信動画等も適宜取り入れた資料作りを心がけたことも、このような結果につながったと思われる。	次年度も引き続き、授業の雰囲気づくりやわかりやすい説明、提示する資料の工夫と充実に努めていく。特に遠隔授業については、ガイドラインに則り、学生の質問等にメールなどで対応しフィードバックできるよう工夫していく。なお、課題である本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間の増については、授業中に学習した内容と関連したレポート等も適宜課すなど、見直しを十分に図っていく。
米持　広美	家庭 指導法特論家庭 乳児保育 子どもの食と栄養Ⅱ	単元ごとに課題を明確にした。また、学生個人が課題に向かっていけるように、単元の各授業ごとのねらいをしっかり定着できるように図り、単元の構造を把握できるよう努めた。	Q1. において、初教２年の「家庭」の評価がよくない。これは遠隔授業で指導案を一人で書かせたため、課題が難しすぎたと反省している。 Q3. においては概ね高評価であるが、やはり「家庭」において Q3-2 理解度、到達度を確認した授業を進め方の項の評価が低く、ここでも授業の目標が高く課題が難しかったことがわかる。	「家庭」の記述の中には、指導案を何度も書き直し、授業準備を丁寧にして勉強になった、課題を赤で修正してくれ、よくわかったなど、好評の記述が多かった。 その他の科目は、後期は演習がほとんどで、実際にやってみたからこそ学べたことの記述が多かった。また、演習に対して準備の大変さを気遣ってくれたり、自分が授業や保育活動をする際の計画・準備の要領がつかめたとの記述があった。	学生の状況にあわせながら、課題を変えていくことの重要性を痛感している。人数の少ない授業ではなおさら、課題に導く方法を個人にあわせ、丁寧に持っていきたい。また、予習課題については、取り組みに差が大きく全体授業に反映していくことが難しく、学生の理解度、到達度をあげていくことができなかったと思う。	単元を構造化し、授業ごとに目標をはっきりさせ、１時間ごときちんとまとめ、周知させていくことに力を入れていきたい。課題に関しては、学生の状況に合わせ設定し、課題も含めた単元構想ができるよう授業を工夫していく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
大田　亜紀	英語コミュニケーションⅡ 外国語（英語） 教育課程論 教育実習指導 進路指導 修了論文指導 保育教職実践演習	全授業においてICT活用が有効な場面においては積極的に使用するようにする。特に外国語（英語）においてはロイロノートを全時間で活用する。「英語コミュニケーションⅡ」においては、実際に英語をつかってコミュニケーションをする学生主体の活動場面を多く設定し、文法の説明などを丁寧に行うことで、不安意識や苦手意識を軽減し、「できる」ことを増やせるように指導する。「教育課程論」は、遠隔で実施し、とスライドや映像資料を活用しながら丁寧な解説に努める。学習指導要領の最新情報を講義内容に反映させるようにし、現場での実践と関連付けながら授業を行う。	学生からの評価は高い結果を得ることができた。遠隔授業もあったが、配布資料、動画資料をできるだけ丁寧に配信したことは、学生にとって評価が高かったと捉える。英語コミュニケーションの授業では、テキストの内容をアクティブな活動へとアレンジして行ったことが学生には理解や自信を高める結果につながったようである。授業の予習、復習、課題のための学習時間が少なかったことはまだ課題である。今回、保育教職実践演習は、学習計画の変更（行事やコロナ関連）が多かったことは学生に見通しをもって活動させる上で課題が多かったと感じる。	「英語コミュニケーションⅡ」では、ペアやグループでの活動やミニアクティビティを行った。またmoodleにあげた音声や映像資料を使って個々のスピードに合わせたリスニングやライティングの活動は、自分のペースで不安なくできたことがよかったという記述が多かった。学生にとっては、「友達と英語でたくさん会話ができて楽しかった」「苦手でも楽しく授業に参加できる等の感想があった。スライドや映像資料はどの授業でも効果的であり、ICTをいかに効果的に活用するかは大切であることを改めて感じた。	授業の予習、復習の時間を十分に取れていないという結果を今後改善することは課題である。多すぎず少なすぎず、また他の授業科目との調整もしないと学生にとっては膨大な時間を費やすことになる。今年度９名の教員で実施した保育教職実践演習は、15回の計画をより学生が見通しをもって取り組めるよう、授業の意義を学生教員で共通理解し、最終発表までのポスター作成指導を丁寧に行う必要があろう。	本年度の授業内容と学生からの評価を振り返り、視聴覚資料を効果的に使用しながら、学生の活動主体で授業を進めていくことは継続的に行う。ロイロノートなどの学習支援システム等も今後より積極的に授業で活用していく。また遠隔授業、対面授業のハイブリット授業も今後急遽求められることも想定されることから、場面・状況に応じた適切な指導のあり方を今後さらに探っていく。
安部えつ子	幼児と表現 音楽	「幼児と表現」は今年からの担当だった。単元ごとに到達目標や時間外学習について説明しながら実施をした。 音楽については、コールユーブンゲンの音源をムードルに置いておき、自主練習に役立てた。	幼児と表現、音楽ともにQ3において概ね平均より高い評価である。時間外学習の時間があまり伸びていない。	声の調子や授業のテンポ感などは好評のようである。今回はオンライン授業分を対面になった際、復習をかねて振り返りをしたがより理解ができたようだった。	「幼児と表現」においては毎時のPPTや個人WSなどでわかりやすく授業が進められ、また個人での作業や振り返りがやりやすかったと思う。また時間外学習やグループワークも取り組みやすい内容であった。 音楽においては、コールユーブンゲンの音源をムードルに置いておいたことで、自主的な練習がしやすかったようだ。	オンラインの教材の整理をしておき、いざという時に使用できるように準備を重ねる。時間外学習の取り組みをわかりやすく指示をする。
向井　隆久	修了論文 子どもの理解と支援の方法 教育心理学特講 発達心理学１AB、１CDE 教育方法論	大講義室や３ホール（２・３クラス合併）で講義を行う１年生は、学生の作業進捗・雰囲気が掴みにくいところがあったため、今年度は内容量を減らし、ゆっくりと間をとって進行したり、スライド資料を毎回しっかり配布し、皆がついてこられるように注意したりした。２年生と専攻科は後期ということもあり、学生が自分たちで主体的に学びを作り、教え合い、ディスカッションしながら学びを深める力の育成を目指した。	１年生の科目については、両科目とも全般的に平均より高い評価であり、学生の受け止めとしては良かったようである。逆に２年生については、全般的に低い評価になっており、過去の年度と比べても落ち込んでいた。２年生にとっては要求水準が高すぎ、ついてこられない学生が例年より多かったかもしれない。専攻科については、全般的に平均より高い評価で、２年生と同じような形式の授業（レベルはより高い）ではあったが、専攻科生にとってはちょうど良かったようである。	１年生の授業では板書（ホワイトボード）やジェスチャーでは受講生から見えづらいため、配布資料の工夫やスライド・動画（スクリーン投影）をできるだけ駆使したが、それらがわかりやすかったとのことで功を奏したようであった。２年生については、難しかったが学びになったという意見がある一方で、普段教員が行いそうな役割も学生が担いながら、学生同士のやりとりが中心になる講義に違和感や不満を感じる意見も見られた。授業意図の説明やフォローが足りなかったこともあるだろう。	１年生は授業時間は講義だけになってしまったが、資料提示の工夫だけでなく、moodleで各自が考えた問いについて少人数で答えを考え、意見交流する場があったことも助けになったようである。２年生は、授業目的をしっかり説明する回と模範授業を教員が示す回が遠隔になってしまったことや、実践的な模擬授業回も急遽遠隔になったことでフォローが追いつかなかった（各種科目のオンライン対応が厳しかった）。専攻科は少人数のため、学生の発言機会を多くとれ、教員が輪に入ってディスカッションできたこともよかったのだろう。	１年生は評価は高かったが、今年は内容量を例年より削減していた。３ホールで授業する場合にも、moodleを使って進捗・理解確認を速やかに把握できるやり方を導入するべきかもしれない。また急遽遠隔になった場合も対応できるよう、初めから対面・遠隔両方の準備をしておき、学生にも前もって知らせておくこともしておきたい。特に学生たちで授業を作る場合は、教師が裏方に回ることの意味をしっかり説明したり、学生負担に配慮したフォローアップに力を入れたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
島田　知和	子どもの理解と支援の方法 修了論文 幼児と人間関係 教育方法論	前期からの改善点として、保育者の援助や子ども理解については、はっきり答えを出すのではなく、学生と一緒に考えていく授業をするということを初めに伝え、多くの考えがあること、自分の考えをもった上で相手の考えを受け、さらに深められるような授業づくりに努めた。	概ね高い評価が得られた。特に専攻科の科目、教育方法論は評価が高かった。他の科目より評価が低かった科目が子どもの理解と支援の方法だった。	オンデマンド授業における細かい連絡や、ワークシートごとに評定をつけ返却していたことについて肯定的なコメントがあった。他にも授業資料がわかりやすい、具体的な事例を用いて他の学生と話し合える時間を設けたことなども評価が得られていた。一方で子ども理解と支援の方法では、クラスが２Ａだったことから小学校に関する内容も扱ってほしかったというコメントや､事例は勉強になったが､考えることが多く大変だったというコメントもあった。	前期からの改善点を踏まえて、事例を通して何を学んでほしいか、何を議論してほしいかなどを明確にしながら授業を進めたことが結果につながったと考えられる。	学生からの自由記述にもあったように、事例をもとに考える時間が確かに多かったようにも感じる。要点を絞って事例を扱ったり、少し動きのある授業を行うなど工夫が必要だと感じた。
石川千穂子	保育原理 子ども理解と支援の方法 幼児と環境 幼児と健康 幼児と人間関係	毎時間のPPT作成を行いmoodleに上げて欠席した学生なども見れるように工夫した。更にグループ活動や個人で実際に探索活動や研究ができるように授業内での工夫を行い実践的役立つ授業に取り組んだ。遠隔授業では、見通しをもって取り組めるように単元ごとの課題を出し理解しやすくなるよう努めた。	対面授業では、コロナ感染対策に配慮しながら行ったためQ1については、どの科目も全体平均よりも高い高評価であった。その他の項目についても学生からの評価は、概ね高評価であった。遠隔授業もあったが、配布資料やPPTに説明を付けて配信したりなど丁寧に行ったことが学生からの指示につながったと捉える｡ただ２年生の科目｢保育原理｣｢子ども理解と支援の方法｣の回答率が低いことが気になる。アンケート記入を遠隔で呼びかけたが応えてくれていないと捉えた。今後の改善につなげていきたい。	幼児と○○の科目、演習が多くすべて対面で実際の模擬保育を実施することができた。自由記述の中にも「実際に計画、指導案作成、保育実施をしたからこそ見えた気付きや改善点があった」と好評の記述が見られた。自分で保育を構想して考える実践的な授業について自由記述も多く書かれていた。	グループ活動、模擬保育、実際の探索活動などが好評に繋がったと考える。更に、実際に体験して実施したことについての振り返りも遠隔になった場合でもできるようにワークを作成し互いにグループ研究についての評価を開示できるように配慮したことが、学生が自分の行った結果についての評価を見合うことができて良かったという記述につながったと考える。	授業内容と学生からの評価を振り返り、演習の科目では、見通しの持った授業内容にしていくこと、資料なども理解しやすい事例を取り上げたり研究をしたりするなどしていく必要があると感じた。更に体験を通して振り返りが充実したものとなる模擬保育の授業の組み立てについて工夫していく。
菅原　航平	初等教育科 子ども家庭支援論 子どもの理解と支援の方法 教育相談 障害児保育Ⅱ 保育実習指導Ⅰ(施設) 保育実習指導Ⅱ 専攻科初等教育専攻 教育相談特論 修了論文	対面授業は、感染予防に留意しつつ学生の参加意識が高まるよう工夫を行った。遠隔授業では、対面授業と同様の内容では難しいと感じる学生もいたので内容を遠隔用に再検討した。また、指示や連絡の方法、内容、タイミングなどの工夫をした。	遠隔授業が多くなった科目でも、平均的な評価となっており授業改善を行うことができたと考える。対面授業が中心となった科目では、評価が低い項目もあり、感染予防と効果的なグループワークや発表の両立を検討する必要があると感じた。	事例を多く扱ったことや他学生の課題への解答を読めることなどは評価され、課題プリントの返却をすぐに行って欲しいというものなどが課題としてあった。３クラス合同の授業等でも翌週にはプリントを返却できるように今後工夫したい。	講義科目については感染予防や急な遠隔授業への対応などを適切に行うことができたが、演習科目については感染予防と効果的なワークの両立や遠隔授業への対応が十分にできていなかった面があると考える。	今回課題となった演習形式の授業については、Q1-3「あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか」の項目が低い授業やさらに事例の検討やワークを増やして欲しいとの意見などがあり、COVID-19感染予防対策をしっかりと行いつつ、遠隔授業も含めて学生が参加の意欲をもち活発な意見交換ができるように授業の進め方を見直していきたい。講義科目については、今後も見直しを進めてさらに学生の理解度・満足度の高い授業としていく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
木戸　貴弘	幼児と健康 幼児と環境 幼児と表現 体育 修了論文	遠隔授業では学びが深まるよう各授業で動画を用いた資料を提示することを心掛けた。また、コロナ禍においても、様々な実践を通して学生が主体的に取り組める授業環境作りを心掛け、アクティブラーニングを全面的に取り組み、感染症対策を十分に行なったうえでペア活動やグループ活動など学生の能動的な学びとなるよう授業の準備、展開、振り返りを意識して実践した。	Q2-1 に関して、今期も引き続き時間外の学習に意識を置いていた。これまでの結果と比較すると科目によっては大幅な改善がみられた。しかし、未だ低い値となっている科目もあるため、学習定着に向けて適切な課題やワーク等を実施することが必要である。また、科目の特性も意識し検討する必要がある。	「グループワークができて良かった」「グループワークが楽しかった」などの記述がみられ、コロナ禍においても十分な対策を講じたうえで、クラスまたはグループ間における関係性を高めることはできたと感じた。一方で、授業内容について、そこから得たものや学びに関する記述が少なく、定着が図られているのか疑問は残っている。	時間外学習の時間の確保は引き続き重要なテーマである。また、学習の学びに関する記述が少なかったことを踏まえると、適切な課題やテーマなどを十分に与えることができなかったと感じた。授業においては活動や実践の意味や意義をしっかりと意識させ、目標を持ちながら指導していくことも必要である。	時間外学習の時間の確保は重要である。自由記述等の結果から、しっかりとした学びの定着を図るためには授業の振り返りが大切ではないかと考えられる。授業内で活動をするだけではなく、その活動の意味やその内容をより学生に具体的に示すとともに、活動に合わせた振り返り課題やテーマを用いた課題などを一層工夫していく必要がある。また、それらをクラスやグループ間で共有する時間などの確保も必要になってくると考えるため、90 分の授業展開を改めて検討していく。
助安　明美	教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 介護等体験	全ての実習指導において出来る限り個別に合わせた指導を心がけた。 実習中は不安や悩みには即対応することを心がけ充実した実習になるよう支援を心掛けた。	合同授業の為、個別の評価は捉えづらいが概ね良好のようだった。	中には、指導内容が理解できていなかったり、分かりづらい点があった学生もいるようであった。	注意事項ばかりを並べるのではなく、なぜ必要かを現場の事例をもとにイメージを持たせられたことが良かったようだ。 授業後の振り返りや提出物の内容の丁寧な確認と支援が必要であった。	他担当者との共通理解を深めクラスによって指導内容に差がないよう配慮が必要である。 時代の変化に応じた指導方法について情報を得ながら引き続き向上心を持ち取り組んでいく。
大元　千種	保育原理（CDE） 幼児と言葉（B／C）	遠隔授業では、学生配布のレジュメをもとにしたPPT を用いて授業説明動画を撮り、レジュメと資料とともにアップした。オンデマンド型ではあるが、できるだけ対面授業に近い授業に努めた。１月になってから急遽対面から遠隔に切り替わったため、グループワークを重視していた幼児と言葉であったが、リアルタイム型で全員発表に切り替え、個別にコメントを記入する形式にかえ、各自が意識的に授業に参加するよう配慮した。	対面授業でも遠隔授業と同様に回答率が６割弱であったことや、保育原理の回答率が２割強であったこと学生からの暗黙の授業拒否を感じた。評価した学生の意見は真摯に受け止めたい。Q1 の授業に対する集中度や意欲と Q3 の教員の熱意についての評価に教科やクラスによる違いが多少みられ、やはり、教員の授業に対する熱意が学生の授業への意欲に関係していると思われた。熱意をもって臨んでいるつもりだが、Q3 にもクラスによる違いがみられたことから、学生のもとめる教員の熱意とは何か考えさせられた。	良い評価は、わかりやすさや実技を伴うところが多かった。保育原理は最終学年のため、今までの総復習になったことや教科書以外の資料や動画などから保育の参考になることが学べたという評価があった。大人数だが、意見を出し合うことについても評価があった。改善点では、資料や課題が多いことがあげられていたが、必要な資料であり課題である。きちんと資料を整理し課題に取り組むことは学生として必要と考える。授業内容に対して時間が足りないことも指摘された。授業の進め方の変更についての意見があったが、急遽隔授業のための説明はしたし、最初から全員発表は伝えていた。	授業内容を欲張りすぎたのが一番問題だと感じた。	遠隔と対面授業どちらにも対応できるように授業計画を立てる。遠隔でのグループワークをするためには形態だけでなく課題の内容や数も考えたい。保育原理は２年生後期科目であるため、最新の保育や情勢の情報を学生と一緒に考えていきたい。大人数での授業でもできるだけ学生との対話をする工夫をしたい。幼児と言葉は、ハウツー的なことを学生が求める傾向があるので、学生自ら考えたりやってみたりすることを大切にして、グループワークなどを通じて話し合うことや、気づきや学び合うことを保障したい。

令和３年度　授業評価報告書

編　　集：別府大学短期大学部　FD 委員会
発行年月日：令和 4 年 3 月 31 日